



カレッジ

支援教員・保護者・学生エッセイ



2014年10月21日に鞍手で開催された「4カレッジ学生交流会」に参加した学生たち

カレッジ福岡 カレッジながさき
カレッジ早稲田 カレッジ北九州

2015年3月発行

社会福祉法人 鞍手ゆたか福祉会

ごあいさつ

私たちの法人が、福祉型大学「カレッジ」の事業をスタートして3年が経過しました。3年前、わずか5名の学生でスタートしたカレッジは、この春、5ヶ所目の「カレッジ久留米」がオープンし、5つのカレッジで学生数は合計80名となります。

4年前、カレッジの構想を話しても、「知的しょうがい者が大学で学ぶなんて考えたこともない」と多くの方はピンとこないようでした。カレッジ福岡がオープンし、「オープンキャンパス」と銘打って、概要説明で、カレッジ設立の目的、目指す学生像、授業の内容などについてプレゼンし、参加者の方々と意見交換し、さらに実際の授業を見学していただくことを何度も繰り返す中で、少しずつ理解が広がっていきました。見学者の中からも、「ほとんどの健常者が、高校を卒業して上級学校に進学する時代に、どうして知的しょうがい者だけ、進学という選択肢がないのかな。これって確かに変だよな。」という声が少しずつ聞かれるようになりました。

昨年1月20日、日本も国連の「障害者権利条約」を批准しました。しょうがい者と健常者の間に、教育においても格差があることは許されない時代が日本にもやってきました。アメリカ、イギリス、フランス、スウェーデン、オーストラリアなど先進諸国では、知的しょうがい者が、普通の大学のキャンパス内で、大学生活をエンジョイしています。一般の大学入試を経ることなく、大学で学びたいという意欲があれば「合格」できるという知的しょうがい者枠が、大学の学生総数の1%から1.5%（学生1000人の規模であれば10人から15人程度）あります。

私たちの法人でカレッジ事業を中心的に担っている5名の職員は、昨年10月と今年1月、アメリカで大学生活を楽しんでいる知的しょうがい者の人たちを実際にこの目で見てきました。多くの授業は、大学内の教室で、知的しょうがい者だけのクラスで行われています。その雰囲気や学びの内容は、私たちのカレッジの授業と非常に似通っていました。私たちは、それを見て、自分たちが目指している方向は、決して間違っていないと確信を持つことができました。

この冊子に掲載されているエッセイは、カレッジ入学後の学生たちの成長や変化について書かれています。エッセイを募集したところ、支援教員21名、保護者17名、学生32名の合計70名が執筆してくださいました。カレッジの学生たちひとりひとりが、カレッジ生活を通じて、それぞれ、友だちや支援教員との関わりの中で、前進、後退を、交互に繰り返しながらも、少しずつ着実に成長している姿が表現されています。読んでいて、私自身も、感動で何度も目頭を熱くしました。

カレッジに通う学生たちが、日々どんなことを感じ考えながら活動しているのか、保護者は、カレッジに通うわが子を見守りながら、カレッジやわが子をどんな風に見ているのか、支援教員は、支援教育の中で、何を感じ、どんな思いで、学生たちにぶつかっているのか、そんなことがそれぞれの切り口で書かれています。是非、ひとりでも多くの方々に読みいただき、授業見学だけでは決して見えてこない、ドラマに満ちあふれた日々のカレッジの姿を知っていただければと思います。

知的しょうがいがあるからといって、「進学する」「学ぶ」という選択肢がどこにもないというのは絶対におかしいと思います。エッセイを読んでくださったひとりでも多くの方々に、その思いを共感していただく中で、今後の知的しょうがい者の青年期教育権保障が前進することを願っています。

2015年3月20日

社会福祉法人 鞍手ゆたか福祉会
理事長 長谷川 正人

支援教員エッセイ

『カレッジで成長するということ』	カレッジ福岡	学 院 長	志免木	… 1
『自分を見つめるということ』	カレッジ福岡	支援教員	長 尾	… 1
『ゆっくり着々と』	カレッジ福岡	支援教員	小 谷	… 2
『少しずつ姿を見せる「隠れていた力」や「忍耐」』	カレッジ福岡	支援教員	中 垣	… 3
『カレッジ福岡で得たもの』	カレッジ福岡	支援教員	甲 斐	… 4
『とあるささいなことから…』	カレッジ福岡	支援教員	花 野	… 4
『「寄り添う」ということ』	カレッジながさき	学 院 長	山 本	… 5
『学生たちの成長』	カレッジながさき	支援教員	田 中	… 6
『頑張ろうとしている姿』	カレッジながさき	支援教員	富 澤	… 7
『今日は昨日よりもっと跳びたい』	カレッジながさき	支援教員	牧 野	… 7
『青年期らしい成長の姿』	カレッジ早稲田	学 院 長	栗 林	… 8
『諦めないこと』	カレッジ早稲田	支援教員	伊 藤	… 8
『トレードマークの笑顔』	カレッジ早稲田	支援教員	鷺 見	… 9
『涙をこらえて』	カレッジ早稲田	支援教員	朝 生	… 9
『一年目のカレッジ北九州』	カレッジ北九州	支援教員	石 橋	…10
『プラス思考になろう』	カレッジ北九州	支援教員	高 田	…11
『小さな見えない成長を積み重ねるカレッジ』	カレッジ早稲田	支援教員	安 達(カレ福で研修中)	…11
『あたたかい「がんばって」』	カレッジ早稲田	支援教員	櫻 井(カレ福で研修中)	…12
『カレッジ福岡での2週間で感じたこと』	カレッジ早稲田	支援教員	君 島(カレ福で研修中)	…12
『Aさんの紙袋』	カレッジ久留米	支援教員	藤 田(カレ福で研修中)	…13
『カレッジでの学生の成長で思うこと』	カレッジ久留米	支援教員	山 崎(カレ福で研修中)	…14

保護者エッセイ

『第一歩』	カレッジ福岡	2年生保護者	…15	
『私のところに生まれて来てくれてありがとう』	カレッジ福岡	2年生保護者	我が子大好き母様	…15
『今日も笑ってきたよ〜』	カレッジ福岡	2年生保護者	mayumama様	…16
『何ことにもチャレンジ』	カレッジながさき	2年生保護者	…16	
『一歩一歩』	カレッジながさき	2年生保護者	…16	
『“カレッジながさき”にかかわるGGの思いあれこれ』	カレッジながさき	2年生保護者	長崎のGG様	…16
『カレッジでの我が子の成長』	カレッジ福岡	1年生保護者	S. M様	…20
『出会いに感謝』	カレッジ福岡	1年生保護者	カーシー様	…20
『よく見る風景』	カレッジ早稲田	1年生保護者	…21	
『福祉型大学を満喫しています!』	カレッジ早稲田	1年生保護者	おでんと熱燗で一杯様	…21
『日々の成長』	カレッジ早稲田	1年生保護者	…21	
『カレッジは楽しそうだね』	カレッジ北九州	1年生保護者	…22	
『カレッジに通って』	カレッジ北九州	1年生保護者	…22	

『神様がくれた宝物』	カレッジ北九州	1年生保護者	朝が来ない夜はない様	…23
『カレッジでの貴重な時間』	カレッジ北九州	1年生保護者		…23
『大切なノート』	カレッジ北九州	1年生保護者		…24
『あたらしい世界にとびこんで…』	カレッジ北九州	1年生保護者		…24

学 生 エ ッ セ イ

『3年間の授業を振り返って』	カレッジ福岡	3年生	まささん	…25
『私の3年間』	カレッジ福岡	3年生	バジリクス・大好きさん	…25
『地元長崎のココロねっこ』	カレッジ福岡	2年生	Sさん	…25
『成長した私』	カレッジ福岡	2年生	Blazeさん	…25
『この2年間、大きな成長したこと』	カレッジ福岡	2年生	Oさん	…26
『たのしかったドラえもん』	カレッジ福岡	2年生	Fさん	…26
『成長し続ける僕』	カレッジ福岡	2年生	りょうちゃん	…26
『たのしいカレッジ』	カレッジ福岡	2年生	Yさん	…26
『カレッジでうれしかったこと』	カレッジ福岡	2年生	ぼくさん	…26
『よかったこと』	カレッジ福岡	2年生	大地さん	…26
『2年間ふりかえて自分のおもい』	カレッジながさき	2年生	ミニーちゃん	…26
『この2年間を振り返って』	カレッジながさき	2年生	ゆきうさぎさん	…27
『2年間を振り返って』	カレッジながさき	2年生	ももクローバーZさん	…27
『2年間で頑張ったこと』	カレッジながさき	2年生	こち亀Zさん	…28
『自分自身をふりかえて』	カレッジ福岡	1年生	Iさん	…28
『中国語』	カレッジ福岡	1年生	Iさん	…28
『何ごとも努力をすれば必ず成長できるぞオオ～』	カレッジ福岡	1年生	Kさん	…29
『よろこびをひょうげんすることば』	カレッジ福岡	1年生	Kさん	…29
『時間を見てこうどうしたこと』	カレッジ福岡	1年生	Yさん	…29
『イノセンスというヨロイ』	カレッジながさき	1年生	Hさん	…29
『ひとりで飛行機』	カレッジ早稲田	1年生	俺は平成ライダーさん	…30
『カレッジの振り返り』	カレッジ早稲田	1年生	Sさん	…30
『1年を振り返って…』	カレッジ早稲田	1年生	焼き付け刃さん	…30
『自分が頑張ったこと』	カレッジ早稲田	1年生	A. Yさん	…31
『できるようになった』	カレッジ早稲田	1年生	Hちゃんさん	…31
『早稲田に来てから』	カレッジ早稲田	1年生	将来の画伯さん	…31
『カレッジ早稲田、1年間の振り返り』	カレッジ早稲田	1年生	Sさん	…31
『自分がなりたい大人』	カレッジ早稲田	1年生	Uさん	…32
『日々努力』	カレッジ北九州	1年生	嵐の櫻井君大好きさん	…32
『電車』	カレッジ北九州	1年生	電車さん	…32
『カレ北の楽しい希望』	カレッジ北九州	1年生	ROBIさん	…32
『自分の成長』	カレッジ北九州	1年生	Kさん	…32

支援教員エッセイ

カレッジで成長すること

平成26年3月31日までは福岡市の小学校の教員、そして4月1日からはカレッジ福岡の学院長となった私。たった1日で自分を取り巻く環境ががらりと変わる中で、それまでとの共通点は目の前に学ぼうとする人の存在があるということぐらいでした。あれから1年が経とうとしています。

文字通り、あっという間の1年でした。おそらくそれは、同じことの繰り返しではないことが、カレッジの日々の活動の中で展開されてきたからでしょう。ハラハラドキドキ、そして感動の日々の連続。「今日は何もなかったね」という日は私の記憶にはありません。それは支援教員が個々の学生の皆さんの「今の状況」を受け止めながら熱心に授業づくりをし、授業以外の時間も細やかに見守りや相談、対応を欠かさず行うことによって「成長すること」を求め続けてきたこと、また、それらの働きかけに学生の皆さんが日々向き合い、受け止めようとしてきたことの証です。学生の皆さんの変化はいつも前向きであるとは限らなかったし、その早さもまちまちであったけれど、ひとりひとりの中に確かに何か息づいていくのが感じられました。このような様子を目の当たりにしながら、カレッジの学生さんにとって成長とは、行きつ戻りつしながら、あるいは迷い戸惑う経験をしながら、自分にとって本当に必要なものを確かに根付かせていくことだと思えるようになりました。

私が最も成長を感じていることは、人を受け入れる力がついてきていることです。これはカレッジ福岡に在籍するすべての学生のみなさんに感じることで、人が人として生きていくために、そして、自分の人生を豊かにしていくためには、自分以外の人を受け入れることが必要だということを、カレッジ生活を通して学び取ってくれたのだと思います。もちろんすべてが

うまくいくわけではありません。トラブルも多くあります。けれども、そのトラブルの様子の中にも、トラブル解決の過程でも、トラブルからの立ち直りの過程にも、「相手を受け入れる」意識がうかがえます。

「相手を受け入れる」ことはしょうがいの有る無しに関わらず、人として大切なことです。そのほかにも、カレッジで学ぶことの中には、人として欠かせないことが多くあります。

学生の皆さんがいつか社会に出て、自分の姿を通して、その大切さを伝えられるようになってほしい、今はそんな願いを持っています。

カレッジ福岡 学院長 志免木

自分を見つめるということ

カレッジが始まり3年。次年度で早くも4年生になる学生がいます。

上下関係ができ、小さな社会がカレッジ福岡にもできてきました。「さあ、学生生活を満喫するぞ〜」といっても最初はどううまくいかないのがカレッジ。学生たちは対人関係、コミュニケーションに課題が多い学生が多く、なかなかお互いの距離感や適切なコミュニケーションの取り方、相手の気持ちが変わりませんでした。

その中でADHDの特性を持つAさんは、いわゆるキレやすく、自分はいいけど他者がするのはダメ!といった感じの学生でした。少しでも苦手感情を持つと終始その人が気になり、いやなところ、気になる部分を探しては指摘し怒り、時にはつかみかかっていたりしていました。

次年度その学生は3年生。今では、たまにキレることもあります。直接その人にあたるのではなく支援教員に訴えてきたり、自分の行動を振り返ったりすることができるようになりました。また楽しみのために頑張ったり、ストレスを発散できる日を持ったりして、対人関係の

トラブルはぐんと減りました。

この2年で何があったのでしょうか。一言でいうと一番はAさんの頑張りです。自分自身の課題を、苦しいながらもしっかりと受け止め、将来を見つめ、少しずつ少しずつ成長していくことができたのです。

正直、支援教員もAさんのためにどう支援したらよいか、毎日話し合いの連続でしたが、今、Aさんの笑顔をほぼ毎日見ることができ、うれしく思う、今日この頃です。

カレッジ福岡 支援教員 長尾

ゆっくり着々と

寒い冬が終わり、河川敷に広がる菜の花を眺めながら颯爽と駆け抜け、男らしい汗をかくカレッジ福岡3年生のKさんの姿を見ながら、彼の成長している姿を改めて感じた。

カレッジ福岡では、毎年行われる行事のひとつにマラソン大会がある。それは3月を予定しており、一年の締めくくりとして学生たちが楽しみにしている行事のひとつである。なぜなら様々な困難を乗り越え、体力的にも精神的にも成長してきた結果を出すチャンスのある場であるとともに、さらには自分の決めた目標に向かって取り組んで、全力を出し切ることで達成感が得られる場であるからだ。

今のKさんは、まさにひとつひとつ乗り越えてきた達成感を実感しながら、新たな目標の達成に向かって輝いているように見える。しかしここまでの道のりは険しく、いばらの道だったことを思い出す。

それは彼が1年生の頃のマラソンへの取り組みのことだ。

やる気もない、服装も普段着のまま、走ることに意味など感じていなかった。練習で公園に行った時にはどうやってサボろうか考えていたそうだ。その影響は周りの学生にも表れ、同級生のMさんと一緒に歩いて過ごした。結果、力

レッジ初めてのマラソン大会では、走ってみたもののすぐにあきらめ歩き出し、ふたりで会話しながらゴールした。まだまだ取り組みに対しての意識、理解が難しく、その意味を見出すことができなかったのだ。

2年生になり後輩ができた。人を寄せ付けない態度や、時にはルールをやぶり、暴力、暴言などが目立つこともあった。しかし支援教員の熱い思いで少しずつ反省する姿に変化がみられて来た。

私が彼と直接かかわりを持てるようになったのはちょうどこの頃だった。

私に対して、まだまだ信頼できる相手なのかどうなのか、様子を伺っているのがよくわかった。私は少しずつだが何でも話をした。カレッジで学ぶことの意味を促し続け、話をしていく中で、楽しさを一緒に感じられるよう取り組んだ。彼は、元々バレーやサッカーの経験があり、体を動かすのは好きである。だが、プライドが高いため、マラソンに対しては、負けることがかっこ悪くてあきらめていた。私は勝つこと、達成することへの喜びを彼と共有し、意欲を引き出すことを続けた。すると彼から出た言葉がこれだった。

「もっと体力つけてうまくなりたい。」

びっくりな一言とともに嬉しくてたまらなかった。それからは、学習の中で効果や意味をより強く感じられるようにし、その成果がどうなるかを実践で見せられるようにしたり、記録をつけ、目で見て自分自身の成長の変化がわかるようにした。

もちろん他の学生も意欲的になり、全体で頑張ろうという雰囲気が出来てきた。彼も先輩としての意地を見せたい。私は煽るように先輩を意識させた。

2年生のマラソン大会に向けて取り組む時には、タイムを気にする様子が見られ、また体型を意識しだしたのか鍛えたいという意欲がでてきた。もはや一年目と違い、マラソンへの取り組みも理解できている。それでも簡単に生活改善ができるわけではなく、体力が追いつかない

こともある。しかし、2年目のマラソン大会では、「頑張って練習した成果を出したい」、そんな気持ちで取り組むことができた。昨年のもあり、ひとりでも走り切ろうという姿に感動した。

そして3年になり、彼の意欲は生活態度の改善までもたらした。もちろんスポーツだけでなく、カレッジでの取り組みの理解や、将来に向けての意識がより強くなってきたのだ。

まだまだ学ぶべきことはたくさんあるが、少しずつ少しずつ取り組んでいる。そして今年のマラソンは初めて5キロに挑戦すると自ら言ってきたのだ。

「今の体力では厳しいかもしれないが、頑張れるか？」の問いに、「頑張る」と力強く答えた彼の気持ちに惚えたく、マラソン大会への猛練習が始まった。

昨年まではペースを考えられなかったが、今年は初めからペースと呼吸を意識して取り組んだ。まずは歩かないですむペースで継続させ、少しずつ距離を伸ばしていった。基礎筋力や心を落ち着かせるトレーニングもすべて意欲的に参加した。

そしてマラソン大会の下見として訪れた筑後広域公園。初めて走る5キロコースを前に、少し自信に満ち溢れているような姿が感じられた。ペースをそろえ一緒に走った。

「気持ちいい。」

彼が言ったその一言に、私はこんなにも成長している姿に感動した。いろいろあった。ゆっくりではあったが着実に成長していく姿が嬉しく、また私自身の活力となった。

来年は最後のマラソン大会、さらなる成長を楽しみに、一緒に寄り添っていきたいと思う。

カレッジ福岡 支援教員 小谷

少しずつ姿を見せる 「隠れていた力」や「忍耐」

立春を過ぎたとはいえ、まだまだ寒い如月の日々。にこやかな笑顔の学生たちですが、ちょっと、顔色悪いなあ、なんかくしゃみが続くなあと、検温してみると発熱していたなんてことも珍しくありません。この時期の昼夜の温度差には、私たちでも身体がついていきませんから、もっとデリケートな方は大変です。体調のすぐれぬ時、頭がもやもやした時は、イライラしてくるのは自然なことでしょう。

さて、Aさんも先日、微熱でカレッジ近くの病院で受診しました。その前後、確かに普段より感情の起伏が大きく、他の方とのトラブルがありました。

けれども、彼が入学した頃は、平時でもすぐにイライラし、クールダウンのために一日静養室で過ごすことも、ままありました。支援教員の話や聞くこともできず、大声で歌いまくり、疲れて寝て…。その繰り返しでやっと落ち着いた当時。しかし、今は熱がある時でも、その起伏はなだらかになってきました。また、他の学生とのトラブルの頻度も内容も小さくなっています。

そして、何よりも成長したと思うのは、支援教員の話をとにかく聞くことができるようになったことです。確かに、すべてを理解し、受け入れているわけではありません。心の奥底の不満も見え隠れします。しかし、かつてのようにすべてをはねつけて自分の世界に引きこもることはなくなってきています。

支援教員が話があるという、素直に話を聞いていますし、話の中で自分の非に気がつくと、謝ることも見受けられるようになりました。そして帰りの送迎車から下車するときには笑顔で、「明日も頑張ります」と言ってくれます。

いろいろあるけれど、カレッジでの生活で、彼の中の隠れていた力や忍耐も少しずつ姿を見せつつあるのかもしれない。

如月過ぎて弥生になる頃、野辺や河原には新しい息吹が見受けられます。どこか近場で土筆でもないかな、そうすればみんなで土筆摘みに行けるのになあと思いながら、ロバート・ブラ

ウニングの詩の一節を口にしていました。

時は春 日は朝^{あした} 朝は七時 片岡に露みちて
揚雲雀^{あげ ひばり}なのりいで 蝸^{かたつむり} 牛枝に這ひ
神そらに知るしめす すべて世は事も無し

カレッジ福岡 支援教員 中 垣

カレッジ福岡で得たもの

木枯らしの吹く寒さの厳しい毎日、学生たちの送迎をしていると、降り注ぐたっぷりの朝日と、オレンジ色の夕日を見ることができる。一日の授業と学生対応で精一杯の日が積み重なっているが、その内容は想像していた以上に中身の濃いものである。

ある日は、ひとりの学生が自分の将来に向けて真剣に悩み支援教員の元に来る。また別の日には、現在の自分に無力さを感じ、肩を落としていて動かない学生にそっと声をかける。精神的に不安定でいつも自分の心の揺れと戦っている若者、自分の二面性に悩まされ、もうひとりの自分の声を聞き思い悩む者。その思いはいつも様々だが、精一杯に今日を生きていることにおいては、どの学生も同じである。

しょうがいのある学生の支援をしているつもりだったが、気が付くと彼らに励まされ力ももらっている。そのことに気付いた時、早起きも通勤の苦労も冬の寒さも大したことではなくなっていた。必要とされる喜び、それに応えたいという自分の思いは、長い間忘れていた母となった時の決意や、自分の生まれてきた意味を考えることにも大きく繋がっている。

ひとりの学生は、小さな行動においても確認が必要である。それができないと、ポツリ廊下で立ち止まってしまう。授業の際は常に支援教員の指示を待っている。細やかな気配りが必要となる。少しずつ少しずつ成長している彼の成長を、忙しさの中で見落とさないよう継続的に行う授業が必要となる。その際は他の学生には変化球もいくつか用意し、各学生の成長もまた

確認できるようにする。こんな作業の中で、自分の中に見守り育てる側の楽しみがムクムクと湧いてきているのだ。

彼には、支援教員の名前を自分で発音することは難しいと思っていたのだが、ある日、笑顔の綺麗な若い支援教員の名前を、一日で覚えしっかりと発音することができた。いつも傍にいる支援教員たちは、ジェラシーを感じながらも大きな喜びを感じた日だった。

それぞれの歩みにはそれぞれの歩幅があり、毎日の活動の中で注意深くその歩みを見守る。我慢強さと笑顔が必要条件である。ここだけは常にクリアできる私は、学生の中にいれば最強だと自分に言い聞かせる。

今までバラバラに散らばっていた自身の人生のパズルが、今、綺麗に目標を持って繋がり、一枚の絵を描き始めている。今日も送迎の車の中から学生たちと美しい夕日を見ている。

カレッジ福岡 支援教員 甲 斐

とあるささいなことから・・・

先日、朝の通勤時のできごとである。私の目の前で、電車のドアが開いたら、人がぶつかり合って、両者ともにその場に倒れた。その後、二人は起き上がり、互いを罵り合うことになった。車掌さんがすぐに駆けつけ、話を聞きながらふたりを車掌室のほうへ連れて行った。よく見ると、ひとりには作業着を着た若い男性、もうひとは、40歳ぐらいのサラリーマンだった。なにもこんな朝から、ふたりとも大人だろうに・・・と思いながら、カレッジ福岡のあるふたりの学生のことを思い浮かべていると、電車が発車した。

そのふたりの学生は、ささいなことから衝突することがある。理由は、一方の学生Aさんの他者への配慮のないささいな言葉が、もう一方の学生Bさんの逆鱗に触れてしまい、Aさんに対して強い語気であたってしまう・・・。

ふたりの話を聞いてみると、Aさんはすぐに謝ることはできるのだ。しかし、自身の言葉が相手へどのように伝わるのか、その配慮が足りない。Bさんは、体調が悪い時、頭がもやもやした時は、瞬間湯沸かし器のようにすぐにイライラすることがある。

つい先日、AさんとBさんはそれぞれ別の場面で、あるトラブルがあった。

Bさんは、やはり他者との衝突である。話を聞いた後、授業後に「先生！」とBさんから話しかけてきた。聞いてみると、自らの過ちを認め、反省しているということであった。その最後に、「明日から、イライラしないようにします！」と言った。この言葉から、Bさんなりに、忍耐力を身につけていきたいという思いがあるのだと感じた。

一方、Aさんは体調不良で、いっしょに病院に行った。幸い異常はなく、カレッジに戻る車の中で、ふたりで話をしていた時、「Bさんが最近変わってきた。自分も言葉に気を付けなければなりません。」と言った。Aさんも彼なりに、努力しているのだと感じた。

私はまだ、カレッジに来て4か月。いろいろなことを経験し、様々な場面にこれからも出会うことがあると思う。これから学生たちがトラブルにあったとき、非を認め、言い訳をすることをせず、すぐに素直に謝ることができるように支援していきたいと思った。

「あの電車でのふたりのようにならないために……。」それを念頭に置いて。

カレッジ福岡 支援教員 花野

「寄り添う」ということ

カレッジに通う学生たちは、様々な活動の中で、日々成長しています。私が担当している3人の学生の様子をお伝えします。

Iさんは、私が担当を持って2年が経とうとしています。彼は入学当初は表情が硬く、孤立

していました。孤立といっても、ただ自分のペース、テリトリー内で活動することが多いだけなのですが。

そこを本人と話を行い、「友だちと関わりながらコミュニケーション力を高めていこう！！」と目標を設定しました。まずは友だちに興味をもつことから。日記の中には自分のことだけでなく、友だちのことも記入するように約束しました。決めてからは、即実行。はじめは短かった文章も徐々に増え、「何見てるの？」と自分から話しかけるようになりました。

そんなIさん、1年間で心優しく人に接し、友だちに興味をもつほどまでに大きく成長しました。友だちと関わるうちに、他者の行動に興味を持ち、楽しいことも見つけ、共通の話題で笑うこともあります。初めは、カメラを向けても顔が引きつっていましたが、今では自分から「写真撮ってください。」と満面の笑顔で写っています。心の底から、笑うことができ、表情が豊かになりました。

そんな彼の成長を嬉しく思うと同時に私も一緒に笑顔になっている今日このごろです。

Sさんとはよく送迎の車中で話をします。時間にすると40分。

彼女とは、はじめ何を話せばいいのか、話題を考えて送迎に向かうこともありました。TV番組のことや芸能人、彼女の好きなアニメなど自分も見ること共通の話題を作っていました。そうしているうちにだんだん自然と話をすることができ、相談も受けるようになりました。

相談においてはどうアドバイスしようかと考えることもありました。Sさんの性格上、強く押すことができないこともわかっていたので、促す程度でした。しかし、それでは彼女のためにならないと思った私は、自分の実体験も打ち明けながら、心に訴えかけました。すると思いが届いたのか共感してくれたのか、彼女も理解してくれ、私を受け入れてくれるようになりました。

それからは何かあれば「先生、送迎お願いします。」とSさんの方から声をかけてきます。そ

んな時は何か悩みがある時。「いいよ」と送迎の車中で相談にのり、同じ女性としてアドバイスをを行います。

時には保護者の方からお願いされることもあります。私と彼女の関係を知ってのことでしょう。そこは同じ親の立場で彼女に話をします。母親に対して素直になれないけれど、第三者の私ということもあって受け入れてくれました。帰宅して保護者にも素直に話げできたようです。

はじめは強く意見をいってくる人に対してはそっぽを向いていたSさんですが、今では人の意見も受け入れられるようになりました。今でも送迎の車中で、Sさんと恋の話をしたり、悩みを聞いたり、たわいない会話に笑ったりして寄り添っています。

ガラスの心をもつHさん。初めは、どのように接すればいいのか悩みました。日々、葛藤する彼にどこまで踏み込んでいいのか、探りながら接していました。

私が探れば、彼も同じように私を探る。面談の時など「怖いよ～」と言われるぐらいでした。「どうして怖いのか?」「だって“メス”を入れるから」。私がHさんについて話すことが、Hさんにとっては心に“メス”を入れているぐらい痛いことなのだということがわかりました。それからは、“メス”の入れ方を変えました。

こと細かに内容を提示し、できることを伝えることで彼にとってわかりやすく、優しいメスになったようです。すると「ありがとう」とお礼を言われました。それからはHさんの方からテリトリーに入って話をしてほしいと言ってくれました。Hさんとの距離が縮まり、信頼関係ができたときでした。私も彼のことがわかるようになり、来校しての表情、声のトーンで何があったのかわかるようになりました。

来校して悶々とした発言をしている時はHさんのサイン。「話をしに来てよ。」と最近私は思うようになり、「どうした?」と話をしに行くとわーっと話し始めます。今では関係性ができているので鋭いメスを入れると「わかってくれてありがとう」と悩みを打ち明けてくれたりもし

ます。つい先日は来校しての1時間。自主学習の時間も費やして悩んでいることについて納得いくまで話をしました。「あ～、すっかりしました。」と笑顔で帰るHさんの表情を見ると安心します。

学生と色々な話をする中、学生たちが言うのは「先生、お母さんみたい。」「え～私は20歳でみんなを産んでません。(笑)」と笑いながら、内心嬉しい言葉だな～と微力ながら寄り添えていることを実感しています。

カレッジながさき 学院長 山本

学生たちの成長

カレッジながさきの開校からほぼ2年が経とうとしています。振り返ってみますと、日々の教科ごとの学びや活動が土台になって、様々な行事を消化していくなかで、学生のみなさんが確実に成長していることを実感します。

特に印象深かったのは、初対面のコミュニケーションが苦手なのだと、“接客”に関しては拒否的だった学生が、グループホームのオープン前の「バザー」で会計と接客を担当し“接客の楽しさ”を実感。「楽しかった」との感想が聞かれたことです。このことが自信にもつながり、次の長崎国体のボランティア活動では、休憩所ドリンクサービス係として「どれになさいますか?」「ゴミ箱はこちらです」と笑顔で接待できていました。

「カレッジの教育カリキュラム」「年間行事」についても、よく練られているなあ…とあらためて感じた次第です。

また、待望のグループホームが開所したことにより、カレッジで学んだことを生活で実践していく場が整ったことで、少しずつ少しずつ衣食住に関する力もつけていっています。自室を離れる時には電気や暖房を消す、食事の前後は食卓を拭く…などはこれまで習慣化されていなかったことですが、今ではこちらが声をかけな

くてもできるようになりました。

就労、自立を目指すとともに、やはり“衣食住”が生きていく基本でもあります。カレッジとグループホームとで両輪となって、支援教員一同、心をひとつに今後も頑張っていきたいと思えます。

カレッジながさき 支援教員 田 中

頑張ろうとしている姿

2014年の4月、私はカレッジながさきの職員として働き始めた。支援教員としてスタートした場所はカレッジ福岡。そこで半年間の研修を経て、11月にカレッジながさきでの勤務がスタートした。

私はカレッジながさきの学生の入学当初の様子を何も知らない。入学当時に作成された書類や、様子を知る支援教員から話を聞いて、状況を想像することしかできなかった。そういった面で悔しさを感じていたある日、「次、それ借りてもよろしいでしょうか?」「僕がここの掃除をするので、君はそっちをお願いします」と仲間と話しかける彼の行動が目にとまった。

私から見るAさんは他人に話しかける時の表情は無表情、不器用な言葉で相手に話しかける。しかしそれが彼の精一杯で、そして何より私はそれが彼の“普通”だと思っていた。

ある日、Aさんがいつも使用しているパソコンの席に見学者が座っており、Aさんは“どいてほしいな”というような表情で見学者を見ていた。「ちょっとそこ、どいてくれないかな〜?」と見学者に声をかけた。話しかけた時、Aさんは苦笑いだった。私は“どいてほしい”という気持ちから苦笑いになったのか。と思ったが、Aさんの様子を見てある変化に気がついた。

【彼は笑おうとしている】

他人に話しかける時、無表情が多い彼が苦笑いをした。固い表情が緩んだ。それは「無表情→苦笑→笑顔」という階段をずっと登ろうとし

ていたのだ。その階段を一段登った瞬間だった。その時、同じ空間に居た自分が嬉しくなった。頑張ろうとしている姿に心を打たれた。

「カレッジに通い始めてからの彼らの成長」を、入学当初の様子を知らない私には、目にすることは難しいかもしれない。しかし、「私が知っている彼らのこれからの成長」を感じることはできる。その可能性を教えてくれた彼に感謝し、私はこれからも学生と共に成長の階段をゆっくり一段ずつ登っていきたい。

カレッジながさき 支援教員 富 澤

今日は昨日よりもっと跳びたい

Iさんは福岡県で開催されるちっこマラソン大会に向けて、朝の運動の時間になわとびを頑張ってきました。

ただ跳ぶだけではつまらないかと思い、目標を持って跳んでもらうことにしました。考えたのは日本や世界の地図を用意して、30回跳ぶと1つの県や国を塗りつぶすことができ、最終的には日本や世界を縦断することができるというもの。

Iさんはこれを達成しようと毎日なわとびを頑張ってきました。最初は数十回で終わっていたIさんですが、日増しに回数も増え何百回と跳ぶことができるようになって、本人も「今日は何マス進んだかな」と尋ね、目に見えて達成に近づいていくのが楽しいようです。

そんな経緯もあってか、スポーツ活動の時間に行っているマラソンの練習でも、タイムが走るごとに縮まっていて、体力もついてきたなあと感じています。

もともと頑張り屋なIさんなので、昨日よりは今日、今日よりは明日というように常に向上心を持って取り組んでくれていて、近くで見守っている私としては、努力している結果がしっかりと出ているんだなあ、なんだか微笑ましくなります。

時々無理して頑張っているように見えるときもありますが、そんな時でも跳ぶと決めた目標があると、そこまでは跳ぼうと諦めない姿勢には私も見習わないといけないかと痛感します。

これからも関わっていく中で、精神的な成長、何かができるようになったことなど、些細な成長でも良いので、その成長にきちんと気づくために、これからも見守っていきたいと思います。

カレッジながさき 支援教員 牧 野

青年期らしい成長の姿

入学当初、とても気になっていたことのひとつに、何かにつけて「ごめんなさい」という言葉が出るがあった。狭い廊下で、ちょっとすれ違っただけで、「あっ、どうもすみませんでした」と間髪いれずに言ってくる。謝る必要もない状況でも、まず自分から謝ってしまう。

とりわけSさんは、その傾向が強かった。どうして自分だけできないのだろう。長年、できない自分を強く意識して生きてきたのだろう。やりたいことがたくさんあり、あれもやりたい、これもやりたい、家ではアルバイトをしていることなど、人懐こく振舞いながら、支援教員に話しかけてくる。しかし、その言葉とは裏腹に、苦手なことからは、さっと身を引いてしまうことも多かった。

そんなSさんが、漢字検定に取り組んだ。5年越しで4回も落ちている7級の試験に挑むことになった。また落ちたらどうしよう。とても不安であった。一生懸命勉強するものの、苦手な項目は、なるべく避けて通ろうとする様子は変わらない。設問の意味がよく理解できないために、なかなか前に進めない。「資格・検定」の時間に、重点的に個別にかかわることにした。その中で、少しずつわかることが増えてきた。そもそも、漢字を覚えることが、自分のためというよりも、周りの人たちにほめてほしいことが理由の根拠にあった。「アルバイトやりたいな

ー」「郵便局のアルバイトには4級が必要なんですよ」と言ったりする。その背景には、家族から、「家でぶらぶらしてるよりも、アルバイトでもしなさい」と言われたりする機会が多いこと。そこから逃れたい気持ちと、それを求める親や姉から認めてもらいたい。そんな心の葛藤が見え隠れする。

カレッジ早稲田に通い始めて、早稲田大学の早稲田祭パレードに参加したり、そのつながりから、大学生の「よさこいサークル」にあこがれ、夜の練習に参加することになった。憧れが、実現していく貴重な体験を積み重ねてきた。カレッジ早稲田に通い、一年近くが経ち、今までとは違う自分に気がつき、自信につながっている。

漢字検定が1月に行われ、今までと今回は少し違う。「受かりたい」その気持ちが前面に出ていた。家に持ち帰って、宿題をやってきたり、自主学習の時間になると進んで勉強を始めたり、前向きな姿があった。そして見事、かなりの高得点で、5年越し、5回目で合格を果たした。また、この間、居住地区のグループホーム体験をしたり、自律・自立に向かう青年期らしい、著しい成長の姿が見られた。

カレッジ早稲田 学院長 栗 林

諦めないこと

彼らがカレッジ早稲田に4月に入学してきたから、もうすぐ1年が経とうとしています。私が担当した中でもSさんは、この1年の間に大きく変わった学生さんのひとりです。

通学し始めた当初は、みんなとてもおとなしく過ごしていましたが、1、2か月程経つと、少しずつ本来の自分の姿が見え始めました。

Sさんは、もともと人の顔や名前を覚えることが困難で、学生同士では、『おい』や『ねえ～ねえ～』などと呼ぶことが精一杯でした。その中でも、自分が興味あること（伝説や古代文明、

神話など)に触れるキーワードが出てきたりすると、人の話しを聞くことなどはできなくなってしまい、とにかくしゃべり始めてしまい、他の人が話したすと、「うるせえ」「ぶっ殺すぞ」と威嚇する言葉を浴びせてしまうことが増えてきました。

5月のある日、とうとうそれが爆発し大暴れ。机を踏みつけ、ホワイトボードを押し倒しと我慢の限界に到達したようでした。その都度、本心を聞くことに専念していく中で、「友だちがほしい、仲間がほしい」という若者本来の願望の中から、「どう、話したらいいのかわからない」という悩みも見えてきました。

それから、言動は変わることはありませんでしたが、夏過ぎあたりから、少しずつですが仲間の学生を名前と呼んだり、暴言を発してしまっただ後に、「ごめん、そんなつもりで言ったんじゃないんだ。つい…」と手を合わせて謝るなど、人に対する接し方が変わってきました。

まだまだ、顔を見ないと名前が出てこない。ついつい、感情が高ぶると声を荒げてしまうことなどはありますが、人との関わりを覚え始めたSさんを愛くるしく思います。

また、4月に新しい学生さんが入ってきたら、しばらくはそれぞれの学生さんが荒れることでしょうが、諦めずに大人同士として向きあっていきたいと思います。

カレッジ早稲田 支援教員 伊藤

トレードマークの笑顔

うつむいて席に座っている様子が前期の印象だったYさん。授業中も休み時間もあまり話さず、何か問いかけても返事程度で言葉が続かなかった。私は、とにかくゆっくりと対応しようかと決め、注意深い見守りを心がけていた。

しばらくして保護者とモニタリングがあり、三者面談を行った時のことである。母親と何のためらいもなく、スラスラと笑顔で言葉のやり

取りをするYさんは、なんと明るく朗らかで、また決断が速いことか。「こんな人だったのか！」と驚いてしまった。

保護者とのやり取りの中でも「小さなころから笑顔がトレードマークだった」と聞き、カレッジでもそのような一面が増えるようにと支援に取り組むようになった。

ちょうど、その頃、カレッジでは、3泊4日の九州ツアーがあり、環境の変化を通して自分の思いを支援教員や仲間に伝える良い機会になった。

グループホームのスリッパが履けない(転倒してしまう恐れがあるため)、集合時間、洗髪、歯磨き、洋服や荷物の整理など何度も悔し涙を流しながら、しかし諦めることなく挑戦した。心配する他の学生や支援教員とのやり取りの中で、徐々に自分の思いを話すことに慣れ、嫌なことがあった日は、必ず支援教員に伝え、家まで持ち帰らないことをお互いの約束とした。

後期に入り、「自主ゼミ」の学習が始まり、好きな芸能人をインターネットで調べることができるようになると、休み時間や「自主学习」(月～金まで下校前30分)に積極的に取り組み、支援教員との話も急激に増えてきた。やりたいことができる環境を得て、通常は休む登校日の土曜日にも参加するようになってきた。授業中の発言はもとより、学生同士の会話も自然と行っている。

好きなことが話題に上がると、全身から湧き出たような笑顔で気持ちを表現する。俯き加減で、表情が読み取りにくかったことが嘘のように、今ではしっかりと前を向き活動に取り組む姿があり、トレードマークだった笑顔はもう戻りつつある。

カレッジ早稲田 支援教員 鷺見

涙をこらえて

Mさんは周囲をぱっと明るくするような笑顔

の持ち主で、誰もが認めるムードメーカーのひとりです。入学当初から学ぶ意欲に顔を輝かせ、授業中は自主的にメモをとり、帰宅後の復習を欠かさない姿勢には目をみはるものがあります。

そんな彼女が授業の一環として漢字検定に取り組みました。大きな行事の合間を縫って、持ち前の前向きさでコツコツ取り組みを続けたMさん。合格への強い思いから試験直前にはみごとに集中力でメキメキ力を伸ばし、迎えた試験当日、その顔には清々しい充実感が満ちていました。そして、さらに素晴らしかったのは、試験後も自主的に漢字の勉強を続けたこと。学ぶことの喜びにあふれた表情は眩しいほどでした。

一方でMさんは、人一倍のやる気も影響し、上手い出来ないことがあると、それを「間違ってしまった」と捉え、周囲を受け付けられないほどの落ち込みを見せることがあり、入学当初は帰宅後に泣いて過ごすことも少なくなかったようです。

しかし、さまざまな授業や行事を経るなかで、自ら意識的に気持ちを切り替える方法を身につけ、上手い出来ないことも「それ自体は悪いことではない」「正解はひとつではない」ということを理解し、受け入れられるまでの成長を見せていました。

そんなMさんの漢字検定の試験結果は、たった3点合格点に及ばず不合格。あれだけ頑張ったのだから落ち込みは相当なものと思われました。

迎えた結果発表の日。帰りの会で合格者が発表されましたが、名前を呼ばれなかったMさんの表情は堅くこわばり、声をかけるのも憚られるほどでした。しかし、帰る準備を整えると、涙をこらえきゅっと口を結んで、ひとり黙々と日直の仕事こなすMさん。自分の仕事を全うするなかでなんとか気持ちをコントロールしようとしているその背中に、彼女の成長がはっきりと感じられました。

「頑張ったね」という声かけに背を向け、黙って下校したMさん。

しかし翌朝、元気な挨拶とともに登校すると、

いつも以上に明るい調子で話しかけ、彼女なりの方法で一生懸命「もう大丈夫」「昨日はごめんなさい」という気持ちを伝える優しさをみせてくれました。ご家庭からの連絡帳には、早速新しい漢字ドリルの購入を検討しているとの記述。「すごいなあMさん、抱きしめてキスしたくなっちゃう！」といったら、いやだーと笑って逃げられました。

カレッジ早稲田 支援教員 朝生

一年目のカレッジ北九州

カレッジ北九州が開校して、まもなく一年が経とうとしています。4名でスタートし、徐々に仲間が増え、今では7名で活動を行っています。

開校当初は、仲間意識が低くお互いの交流が非常に少ない状況でした。また自己主張の強い学生さんたちが多く、常に自分の意見を通そうという姿がみられました。また自分の意見が通らないと、不満げな表情をあからさまに示す学生もいました。話し合いの場を設けても、それぞれの個性や相性などにより、意見がまとまらないことが多くありました。

しかし、半年もたたないうちに変化が現れました。環境にも慣れ、また、さまざまな活動を通してお互いのことを知るようになりました。そして、何よりも本人たちの成長！他者の意見に同調する姿が見られるようになりました。活動に苦戦している仲間がいれば、声をかける姿も見られるようになりました。一緒に飲もうと、他の学生のためにジュースを持ってくることもありました。また昼休みには、大好きな絵をホワイトボードいっぱい描きこんで交流する姿もありました。

確実に成長をしているカレッジ北九州の学生さん。しかし、これが続かないところがあるから難しい。二歩進んで一歩さがる。ときには二歩も三歩も下がるときもあります。それでも

前へ進んでいる実感はあります。

もうすぐ2年生となり、下級生が入ってきます。きっと大きな変化が訪れることでしょう。それはきっと良い変化です！

カレッジ北九州 支援教員 石 橋

プラス思考になろう

「プラス思考」とは、物事を肯定的な方向に傾斜した考え方を行う傾向。ポジティブシンキング、積極思考。

先日、ヘルスケアで「プラス思考」についての授業を行いました。「プラス思考」に物事を考え、明るい未来を創ってもらうことが目的です。「プラス思考」と「マイナス思考」、それぞれ脳からホルモンが出るため、「プラス思考」は体にいいということ、これからは「プラス思考」で生活しようということをお伝えしました。

授業を終えての感想を聞くと、「両思考に人体へ影響が出ることに驚いた」「もっと明るくなる」「何に対してもプラス思考で生活しようと思った」「プラス思考が明るい未来をつくる鍵になることが分かった」「もっとプラス思考、マイナス思考について知りたい」など述べていました。

マイナス思考の考え方の例をあげたときは「ほとんど当てはまる…」と、肩を落とす学生がいましたが、自分と向き合い気付くことで、前向きになれることはいいことだと思います。

この授業のあとから、嫌なことがあっても「プラス思考、プラス思考」とつぶやく学生、苦手なスポーツも頑張ろうとする学生、論文発表会で受賞を逃しても次に向けて意気込む学生など、学生自身がプラス思考に変わろうとしている様子が伺えます。

この授業が全てではないけれど、ひとつのきっかけになったのではないかと思います。授業をして良かったなと嬉しく思います。

学生には「プラス思考になろう」といって授業をしましたが、私自身も、しばしばマイナス

に物事を考えてしまうことがあります。そのため、この授業は自分に対しても言い聞かせる、再確認するといった授業でした。

前向きに変わろうとしている学生に、日々刺激されています。これからも学生と一緒に成長していきたいです。

カレッジ北九州 支援教員 高 田

小さな見えない成長を 積み重ねるカレッジ

成長ということばの意味合いには、いろいろなものがある。例えば、子どもが成長するといった時には、第一に身長が伸び体重が増加するような身体的な成長を思い浮かべることが多い。実際、このような身体的変化は視覚的に認知しやすく、しかも物理的に容易に変更できない決定的なものだ。

一方、精神的成長については、身体的成長と同様に重要に扱われることが多いのは周知の事実だ。しかし、身体的成長との決定的な違いは、その捉え難さだろう。特に、毎日の細かい変化や成長は親近者でさえ判りにくいことがある。例えば、ある話し言葉に全く反応できなかったのに、時々反応して頷くような状態になり、最終的には明確に反応して、何か返答しているようになる場合がある。このような場合には、最初の捉え難い状態をいかに理解し対応していくかが大事になってくる。

カレッジで支援教員として学生に接していると、毎日の細かい状態を認知して、適切な対応をしていくことが重要になってくると感じる。しかしながら、即座に適切な対応ができず後悔することが多い。その時には、学生たちの純粋さや素直さ、優しさに励まされて、元気をもらいながら、次回こそは適切に対応しようとしている。少しでも、学生の側に立って役立つことに喜びを感じている。

そのような具体的な例として、生活技能科の

パソコン実習でのできごとがあった。私が学生たちのワードによる文章の打ち込みの授業を担当したとき、ある学生が打ち込みの間違いをしばしば行い、支援教員へ助けを求めることが多かった。私は、その学生は時々でも正確に打ち込んでいるので、練習してうまくならなくても、それを大事にしてあげたいと思っていた。つまり、その学生が間違わずに打ち込むようになることをあまり期待していなかった。

ところが、1ヶ月後に再度打ち込みを行うと、その学生は間違いもなく、すらすらと文章を打ち込んだ。私は、非常に驚き、そして手を叩いて喜んだ。前回の私の授業の後にも、別の支援教員たちによってパソコンの練習をしていたので、その成果が出たのかもしれない。本当によかった。その時には、その学生はエクセルによる数値の打ち込みも上手にできていた。電卓によって数字の打ち込みに慣れたのかもしれないが、それにしても何か急に上手になった気がする。

ちょっとした成果ではあるが、今後のその学生の人生にとっては大きな成長となったであろう。そんな成長のお手伝いができて、私は晴れやかな気持ちになった。

カレッジ早稲田 支援教員 安達
(カレッジ福岡で研修中)

あたたかい「がんばって」

私がカレッジに出会って半年、期間にしては本当に短いですが、その短い期間でも学生たちといろいろな話をしました。授業中は真剣に、休憩時間は楽しく、毎日数え切れないほどの言葉を交わしているカレッジの学生たち。

目が合えば優しく声をかけてくれたり、時には自分の意見を力いっぱいにつけてくれたり。カレッジ勤務は毎日が新しい発見の連続です。先日も、またひとつ素敵な一面を見せてくれた学生がいました。

その日、私は少し体調が悪く苦しそうに（見えたのだと思います）階段を上っていました。すると…、静かに、ひとりの学生が私の腕をもち、付き添って階段を上ってくれました。

自分よりも背の大きな私を精いっぱい助けようとするその姿はととても逞しく、私の胸は温かくなりました。普段の彼は、まだまだ自分の気持ちが抑えきれず支援教員と話をしたり、自分の思い通りにならないことがあるとふてくされた態度をとってしまう、そんな学生でした。

そんな彼が見せてくれた逞しい一面。それも、授業中でも活動時間でもない誰も見ていない時間に、苦しんでいる相手を助けようとするまっすぐな誠実さ。ぎゅっと私の手を取り階段を上がっていくしっかりした足取り。足取りの重い私に「がんばって」と何回も声をかけてくれる優しさ。

彼が見せてくれた新しい一面に驚きながらも、嬉しい気持ちと同時に「ありがとう」という気持ちが心の中にいっぱいに込み上げてきました。これからも、彼の温かい行動がたくさんの人を笑顔に変えていくのだろうと、彼のこれからがますます楽しみになりました。

カレッジ早稲田 支援教員 櫻井
(カレッジ福岡で研修中)

カレッジ福岡での2週間で 感じたこと

カレッジ福岡に来て、まだ2週間しか経っていない。でもこの2週間で、私は、さまざまなことを発見し学んだ。

まず、学生たちのあいさつがすばらしいこと。わたしが、「おはよう」というと、学生たちはしっかり、「おはようございます」と答えてくれる。その時、わたしはもう一度言い直す衝動にかられる。学生たちと同じようにしっかりと「おはようございます」と…。

次に、校舎内がいつもきれいなことだ。掃除

の時間を見守れば、きれいな訳が理解できた。ひとりひとりがしっかりと自分の清掃場所を一生懸命に掃除をしている。掃除機をかける者、ガラス窓を磨く者、教室内の床から黒板、机と隅々まで掃除する者、誰にも指図されずに主体的に清掃活動を行っている。どおりできれいなはずである。

カレッジ福岡の学生たちは、しっかりあいさつができる。そして清掃活動を主体的に一生懸命がんばっている。このことは社会人になっても通用する重要なスキルでもある。そして、すばらしい笑顔を持っている。

このカレッジ福岡で4年間しっかり学ぶことで、学生ひとりひとりが社会に自立していけるさまざまなスキルや実務、作業を身につけ成長してゆく姿をこれからみてゆくことができると確信するとともに期待している。

カレッジ早稲田 支援教員 君 島
(カレッジ福岡で研修中)

Aさんの紙袋

「藤田さん、今までお世話になりました。」

美しいお辞儀とともにAさんが両手で丁寧に差し出してくれた紙袋をそっと開けてみると、Tully's のブラック缶コーヒーが入っていた。

さかのぼること約8ヶ月前の7月7日、私はカレッジ福岡にやってきた。大学を卒業してからの9年間、公立の中学・高校の教員として教壇に立ってきた私。生まれて初めての転職にドキドキしながら、カレッジ福岡の教室を覗いた。

そんな私の目に飛び込んできたのは、元気な挨拶と人懐こいたくさんの笑顔。カレッジに在学している学生ひとりひとりが生き生きとしていること。とても素直なこと。授業を受ける瞳が、あまりにも真剣でまっすぐで…。驚きとともに、ここに来たことは間違いではなかったと、そう強く思えたことを今でもはっきりと覚えている。

ここでは最上級生のAさん。研修生としてやってきた私を、はじめは好奇の目で見るような…、警戒しているような…、そんな印象を受けた。だから私は、時間をかけて打ち解けようと努めた。

授業では、強くこだわりを持っていて自分が納得する答えを出すまでにとっても時間を要するAさん。そんな一面を垣間見て、なんだか自分とよく似たものを感じた。

就労移行プログラムが徐々に増え出した秋ごろからだろうか。彼女との会話が弾むようになってきたのは…。ほんのちょっとした体調の変化や、心の内をポツリポツリと漏らしてくれるようになり、やっと私も支援教員のひとりとして彼女に認められたのかと思うと素直に嬉しかった。

ある日、帰りの送迎車内では、3年生のBさん、Cさんがたまたま乗り合わせていたこともあり、Aさんと私を含めた4人は、“好きな缶コーヒー” の話題で大いに盛り上がった。

最近、授業以外での敬語も板についてきたBさんは、「自分は、〇〇の〇〇っていうコーヒーが好きですねー。」と言い、「私は、Tully's のブラックコーヒーが好きやねえー。」と返した。「えー？それってどんなデザインですか？」と聞いてきたAさんの問いに私は、「えー？どんなデザインやったかなあ？黒いボトルに Tully's のマークと名前が入っていたような…。でも、色とかは、はっきり覚えていないなあ…。」たしかそんな会話だった。

それから数週間後の2月27日。

研修最終日もいつもと変わらない慌ただしい昼休みを迎えていた私。そこへやわらかい笑みを浮かべたAさんの姿が現れたかと思うと、大事そうに抱え差し出してくれた私への“餞別”。

それは、あのとき何気なく交わした会話に登場してきた、私の一番好きな“Tully's のブラック缶コーヒー” だった。

彼女が、あの何気ない会話の内容を覚えてくれたこと、数ある缶コーヒーの中から正しく選んで買ってきてくれたということ、限られ

た小遣いをやりくりして、私のために足を運んで買ってきてくれたということ、わざわざ紙袋まで買って準備してくれていたこと、授業中、片手でプリントを差し出す学生にいつも口うるさく「両手で！」と指摘する私を意識してなのか、丁寧に両手で差し出してくれたこと、さまざまな授業の積み重ねで習得された美しいお辞儀をこの場でしっかりと実践してみせてくれたこと…。

手に取った缶コーヒーを見ながら、ほんの一瞬のうちにいろんな気持ちが溢れ出した。たしか彼女は…かつてコンビニで働いていた経験があると聞いたことがある。当時は、たばこの銘柄がなかなか覚えられずに、そういう苦しみを誰にも相談できずにその職を辞めたとも…。

だから余計に嬉しかった。

カレッジでは、多くの方々愛情や温かい支援を受けながら、素直にしなやかに成長していく学生の姿がたくさんある。Aさんもその中のひとりにすぎない。彼らが自信をもってカレッジを巣立っていけるよう今後もその手助けをしていけたらどんなに幸せだろうか。

一年後、Aさんが今よりもっと眩しい笑顔で就職の報告をしてくれる日がくるまで、あの“餞別”は大切にしておこうと思う。

カレッジ久留米 支援教員 藤田
(カレッジ福岡で研修中)

カレッジでの学生の成長で思うこと

しょうがいによってからだやこころの働きに困難のある学生は、基本動作が未学習であったり、誤学習であったりするために、生活・作業動作を十分に行うことができない。このような学生たちに十分にコントロールされた自己をどのようにして獲得させることができるかが支援教員の専門性だと考える。どの教育方法・理論に基づくかは、支援教員のしょうがい観に委ねられるところである。

学生の中には治ることのない病変を抱えている人がいる。病変そのものは同じとしても、不自由の程度は人によって異なり、同じ人でも状況によって、その不自由度は大きく変化する。良くもなれば悪くもなる。病変は変わらなくても、不自由の度合いはその人の気持ちによって変化する。

たとえば、健康・スポーツでは、一見すると体の使い方と動きに大きな差が出ている。からだを自由に動かすことができないのは、そのからだの持ち主である自分が、自分のからだを動かす心理活動をうまく機能できないためである。自分のからだを自分の思ったように動かそうと意図しても、思うように動かない状態がそこにあるのである。からだを思うように動かすためには、意図する、努力する、そして結果として身体運動が起きるということになる。からだを通じた相互（支援教員と学生）のコミュニケーションを図りながら、自らのからだの動きを意図し、意識して動かす努力を行うことが重要である。さまざまな実態を踏まえながら授業計画を考えることは大変であるが、ひとりひとりのことを考えるのは楽しい。

学生の皆さんとの何気ない会話のなかには、必ず、支えとなる友だちや支援教員が登場する。支援教員の心の内に、しょうがい者に対する理解と教育をしようとする情熱があってこそ、よりよい生活が送れる。友だちと深く関わり合いたいと願う本人たちの思いと、友だちとの関わりが上手くいくように支援教員が環境を整えていくことで、「学生たち」の周りには、多くの仲間が集まってきている。

私は、ここカレッジ福岡で苦手なことにも諦めずに挑戦していく強い意志を持った彼らに感動し、お互いに支え合っていることを学ぶことができています。しょうがいを持った学生たちは、出生から成長の過程で多くの困難に遭遇しているが、その困難にひるむことなく、力強く立ち向かっている。

カレッジ久留米 支援教員 山崎
(カレッジ福岡で研修中)

保護者エッセイ

第一歩

カレッジ福岡を知り、見学、面接、入学通知、入学。現在は2年生となり、この間、いろいろとありました。見学では、在学中の方とうちの子の差があまりにもあり、無理と思い、カレッジ入学はあきらめていました。面談では、どうしても、親として入学できたらと思い、重い子の入学もできるように難しいことをお願いし、いろいろとお話しさせていただき、困られたと思います。

その後、入学通知が届き、カレッジ福岡に入学できるようになりまして、たくさんの不安はありましたが、“第一歩”進むことができました。進む中で、今までの学校とは違い、いろいろな授業内容で、楽しく通学して、調子も良く、安心していましたが、ひとつの壁にぶつかるとうまく休むことが多くなりました。その壁とは、お友達との関わりでした。おとなでも人との関わりは難しいですが、またさらに、どんなふうに関わり、接してよいかわからず、パニックになり、ご迷惑をおかけしました。その場を避けて休むことでは解決することではなく、本人が、いろいろな場で経験して、成長してもらい、この4年間、カレッジ福岡の場で先生方には、いろいろとご迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いたします。

卒業して、また、“第一歩”に関わることとなりますが、カレッジ福岡での4年間の経験を活かして、また“第一歩”を歩き、進んで行ってほしいです。

カレッジ福岡 2年生保護者

私のところに生まれて来てくれて
ありがとう

昨日、成人式で友人や先生方と久々の再会を喜んでいました。着物姿の娘に感無量で、「私のところに生まれて来てくれてありがとう。」という気持ちでいっぱいです。

家にいる時は、何でもしてあげないとできないだろうと、あれこれと世話をやき、心配し、しかし、カレッジ福岡、グループホーム「ブルーム和白丘」での生活は自立に向け、親離れ、子離れの第一歩となりました。何ヶ月かに一回しか逢えない寂しさや、帰省して、又福岡へ帰るときの寂しさ、悲しさはあるのですが親より長く生きるわが子のことを思うと、辛くても見守らないと成長はないのかな、ひとりでは生きていけないのかなと自分に言い聞かせています。

親の心配とは裏腹に休みの度、毎回五島から福岡まで送り迎えしなければいけないだろうと思っていましたが、それも1年間だけで、2年目からはひとりで帰省できるようになり、ひとりでもできるんだということに気づき、驚きの連続です。よく考えたら今までも、珠算なんて、ピアノなんて、英語なんてできないだろうと思っていたことが珠算は2級、暗算段位、コンクール満点金賞など、いろいろなことができていたんです。もっと親も子も自信を持っていいんですね。

ひとりで帰省できるのはいいのですが、嫌なことがあったら勝手に帰ってきてしまうのではないかと心配したこともあったのですが、そこはさすがに本人も勝手に帰ってはいけないと考えているんでしょうか…。あまり頑張り過ぎるのも良くないので、好きなこともしながらきついこともしつつ頑張ってもらいたいです。

これまで娘のお陰でいろいろな方と出逢え、普通に生きていたら経験できなかったであろうことが経験でき、娘のおかげで私は成長させられています。本当に「私のところに生まれて来てくれてありがとう」。

カレッジ福岡 2年生保護者 我が子大好き母様

今日も笑ってきたよ～

娘はカレッジから帰ってくると、“今日も笑ってきたよ～”と一日の楽しかったことを話してくれます。小4の終わりから絵画教室に通っている娘の将来の夢は画家になること。その夢を叶えたくてカレッジに決めました。カレッジに決めた理由は、まず、娘が行きたいと感じたこと。そして、娘の絵を見て下さった時の理事長先生。娘と娘の絵を認めて下さっていることが伝わりました。このことで、カレッジだったら毎日楽しく過ごせて、生き生きとした絵が描けると確信しました。片道1時間以上の通学は、はじめ少しきつそうでしたが、1ヶ月もすると慣れていました。山笠で交通規制があって、帰るのに2時間かかった時も、とても冷静で、“山笠があつてるから遅かった～”といつものように帰ってきました。中学までは、友たちと遊びに行くことは全くなかったのですが、余暇活動では、カラオケやボウリングへ行くので、楽しみながら達成感もあるようです。調理は、自分たちでメニューを決め、買い物も行くので、計画して行動する力がつきました。スポーツは、なんと1年目から2キロのマラソンを完走できました。これだけ充実した学生生活のおかげで、カレッジに入学してからの絵は、パワフルな作品が次々と完成しています。これは、先生方おひとりおひとりが、娘の可能性を信じて、熱心にご指導下さっているおかげと心から感謝しています。“今日も笑ってきたよ～”と言える毎日をありがとうございます。

カレッジ福岡 2年生保護者 mayumama 様

何ことにもチャレンジ

カレッジに通い始めて3年目になろうとしています。一番変わったと思うことは、何事にもチャレンジしようとすることです。以前は、自分ができないと思ったことは、しようとしませんでした。また、できないことで、暴言を吐

いたりしていました。

でも、カレッジで、仲間とたくさんの経験と、先生方がやってみようと思うまで、励まして下さることで、安心し、前向きに考えることができるようになったと思います。

私は、カレッジで仲間と色々な経験をして、しっかりした土台を築いてはばたいてほしいと願っています。

カレッジながさき 2年生保護者

一歩一歩

コンビニエンスストアでのことです。「おにぎりは温めて下さい。肉まん1個お願いします。」と今は普通に言えるようになりましたが、構音しょうがいがある娘にとっては、大きな進歩でした。

今まで、“自分の言うことは、人に通じないから、お母さんが言って”といつも言っていました。人と話すことが苦手で、なかなか相手の顔を見て話すことができませんでした。

カレッジに通い始めて2年間、少しずつ人前で話すことや、発表することができるようになりました。これもカレッジでの学びのおかげだと思います。

これからもいろいろな経験をして、ハンディをハンディと思わないよう、一歩一歩成長してもらいたいと思います。

カレッジながさき 2年生保護者

“カレッジながさき”にかかわる GGの思いあれこれ

故有って、幼少時から私（GG）と妻（バーバ）との三人での生活が始まり現在に至っています。つまり、私(自他共にGGと称しています)が孫娘の保護者となったわけです。孫が2歳中頃になっても“片言も発しない”、話しかけても“無表情”、しかも“歩かない”ことに加えて“

食欲だけは旺盛、有ればあるだけ食べて太るばかり”で、先が全く見通せない真っ暗で長い長いトンネルの中を、まさに暗中模索する日々を過ごしていました。

ところが、友人を介して菜の花保育園や長崎県療育指導センターに出会い、適切な保育や療育を受けることにより、徐々に改善の兆しが見えはじめたものですから、小学校は“特別就学措置・条件観察付”ということで通常学級で学ぶことができました。幸いなことに6年間、「いじめ」らしいことを受けることはなかったものの、学習にはまったくついていけず、かといって、先生がプリントなどの別教材を渡すなど特別扱いされることについては“強く拒絶”し、合わせて、同級生との会話や交流がほとんどできず、いつも無表情で暗い面持ちで過ごしていました。

そこで、中学校は私の強い希望で養護学校中学部に入学させることにしました。環境の急激な変化に対応できるだろうかと、私は強い不安を抱いていましたが、養護学校は幸いにも心地よい居場所になり、表情が見違えるように明るく笑顔に満ちあふれるようになっていきました。中学部に引き続き高等部は特別支援学校に入学し、一般就労をめざして“レッツ能開ふれあい体験”や“能力開発センター体験入校”など、いくつかの現場実習を積み重ねるなどして学習を深め、長崎県南部障害者就職面接会で二社を受験しましたが不採用になり、その後、長崎能力開発センターを受験しましたが、これまた不合格となりました。

ところがタイムリーなことに、あらたに大村市にオープンすることになった“カレッジながさき”に巡り会うことになり受験し、「入学」が許可されました。しかも、「高等部卒業後に、あまり間を置かない方が良いでしょう」とのことで、卒業式（3月1日）の翌日から「通学」して良いという実にあたたかい心配りでもありました。このような配慮にも“カレッジながさき”の開校の精神が感じられ、とても嬉しく有り難いことだと感謝したものです。

“カレッジながさき”「入学」に先立つ説明会などにおいて、長谷川正人理事長や福岡教育大学猪狩恵美子教授が話されたことの中で特に強く印象づけられたことは、①健常者には専門学校、短大、大学などへ進学する道があるように、特別支援学校高等部の卒業生にも、それらに相当する学習の場が保障されるべきである。②一般就労しても途中で挫折した場合、学習期間が長いほど立ち直りがはやい。③余暇を有効に活用すること、つまり、楽しみ方を知っておかないと働くことは長続きしない、という三つのことで、どれもが“ナルホド！！”と納得させられるものでした。

また、“カレッジながさき”は、制度上は「自立訓練（生活訓練）」の場ではありますが、特別支援学校高等部卒業後の学びの場であり、自立していくための「金銭管理」「食生活」「調理実習」「余暇活動」「職場体験」など、特別支援学校高等部の延長（支援学校の「大学」）という位置づけで4年間の教育課程が組まれており、その内容は1・2年生が教養課程、3・4年生が専門課程となっているということです。

さらに、「大学」と位置づけることで、自分でテーマを見つけて調べ学習の発表の場としての「研究論文発表会」や、福岡、北九州、早稲田との4カレッジの交流学習会なども企画され、社会性を学ぶ機会を作っています。

ところで、鞍手ゆたか福祉会“カレッジながさき”は福祉施設なので学校法人ではありませんが、崇高な精神で、内部的には特別支援学校の「大学」という位置づけで、「入所」は「入学」と称し、また、「利用者」であるが「学生」と呼び、「支援員」であるが「支援教員」と呼ぶなど、本人たちには「大学生」という自覚を持つように指導されています。ちなみに、こんなことがありました。心臓疾患（肺動脈弁狭窄症）手術のため入院中に、本人が見るからに幼い容貌なので看護師さんから「中学生ですか？」と尋ねられたとき、「いいえ、大学生です」と誇らしげに“即答！”したので、「なるほど！」と実感させられた次第です。

“カレッジながさき”の先生方には、「しょうがいについての状態等」について大体次のような内容を報告し、指導と支援をお願いしています。

1) 過食・過飲の傾向に歯止めがかからない。三度の食事は決まった量で満足しているようだが、ひとりで留守番しているときや夜中に起き出しては、買い置きしているパン類や電気釜の中のごはんや冷蔵庫の中の生ものまでも食べまくり、体重の増加に歯止めがかからず、体脂肪率も50%を超え病的な状況である。長崎大学病院の先生からは、インスリン値が非常に高く糖尿病がいつ発症してもおかしくないと言われている。

2) 隠れ食いした後の容器や食べかすなどを机の下や引き出しの中、あるいはタンスの下の隙間などにねじ込んで隠すなど、清潔・衛生観念に欠けており、朝起きたらすぐ顔を洗うこと、トイレの後は必ず手を洗うこと、汚れた洗濯物はすぐ出すことなどと合わせて度々注意しているが、生活習慣として全く身につけていない。

3) 部屋の整理整頓も悪く忘れ物も多い。就労に向けては、早寝早起きして余裕をもたせるために早めに家を出ることなど、とても大事なことだと何度も何度も注意しているが、「長崎駅に着いてから“JRを待つのが嫌”だ」という言い方で自己主張し、本気で私の注意を受け入れてはくれない。

4) 金銭の管理もずさんで、心臓手術の際の3万円ほどの入院見舞金を一週間で菓子類などを買い食いし、その結果、体重が一気に10kgほど増えてしまったこともあった。まとまったお金を持っているときの買い食いの状況たるや壮絶なものである。

自立をめざして「学習」している内容について、これまでに学んだことなどを具体的に紹介し、振り返ってみます。

1) 「金銭管理」について

学習の一環として小遣い帳の付け方や間食の管理・指導までも目的意識的になされており、徐々にではあるが、自覚の高まりが感じられま

す。現在は私が毎週月曜日に300円与えていますが、それらも含めて収入・支出の記録指導をしていただいています。これまで、レシートと記帳内容とが合わなかったことから、使途の「問題点」が発覚し、指導に活かされたことが何回かありました。しかしながら、まだまだ私の不安感は拭える状況に到達していません。ついでながら、お金(数)の量的な認識のレベルで言えば、例えば先日、「230円の半分はいくらか」と尋ねてみたが、「115円である」ことが出てこず、バーバ(妻)が、「200円の半分は100円。30円の半分は15円。だから、230円の半分は115円でしょう。」と説明していたが、今ひとつ釈然としない表情をしていました。以前、大金の管理で大失敗をしました(短期間での買い食い)が、最近、今後の障害年金受給を想定して預金通帳の作り方を学習したそうで、その成果として、今回の成人祝いにかかわる大金の扱いについては先生の巧みな指導を受け入れて“マイ通帳”に入金したとのこと。お金(特に大金の場合)への執着が強く、これまで何回か難儀したことを思えば、“カレッジの先生様!”と深く感謝しているものです。

2) 「食生活」について

隠れ食い、買い食いなどの問題を抱えているので、間食のあり方についても学び、関連グループホームの“レジデンス大村”にても管理・指導を受けて、徐々に意識は高まっているように見受けられます。ただ、自宅からの「登下校」の途中での買い食いや帰宅した際の食にかかわる自制や自己管理については、まだまだ課題を抱えているようです。

3) 「調理実習」について

これまでに、以下のようなメニューについて学びました。その数の多さに改めて驚いています。なお、事前に調理実習のメニューを考え、レシピにもとづき予算内で食材を買いに行き調理しています。調理にとっても関心が高いようで、これらの3分の1ほどは自宅でもひとりでレシピを見ながら黙々と調理し、我が家の食卓を賑わせてくれました。いずれも格段においし

くいただくことができました。このようなことは、高等部までの生活では到底考えられなかったことで、その成長ぶりをとても嬉しく思っています。

たきこみご飯、ハンバーグ、ポトフ、「日本型食生活」メニュー、ピザトースト、ミートスパゲティー、弁当メニュー、ササミのフライ、コーンスロー、天ぷら（さば、さつまいも）、豚汁、レタスの肉巻き、ゆで豚のタレかけ、ホワイトチョコのレアチーズケーキ、卵なしクッキー、かぼちゃのそぼろ煮、もやしたっぷり野菜炒め、カレーうどん、あんかけうどん、煮込みうどん、ちゃんぽん、肉じゃが、たたきごぼう、鶏のからあげ、煮こごみ、鶏肉団子と春雨スープ、豚肉の生姜焼き、ポテトサラダ、ちくわの磯辺あげ、豆腐ともやしのごま和え、ホットケーキミックスで豆腐ドーナツ

4)「職場見学・職場体験」について

これまで、以下のような活動に参加し、就労に向けて学習することができました。

職場見学（ケーブルテレビ、ニチレイフーズ、FM大村）、職場体験（大村郵便局、大村市立図書館、大型スーパートライアル）

5)「知的学習」について

一般就労など自立に向けては、生活面だけでなく、知的にもまだまだ「学習」を継続していくことが必要だと思えます。このことにかかわっても、調べ学習発表の場としての「研究論文発表会」が設定され、昨年度は心臓手術入院のことにかかわり「生まれ変わった自分」というテーマで発表することができましたが、今年度は「CMについて」というテーマで発表することになっています。また、「ワープロ検定」、「漢字検定」、「数学（算数）検定」などにも取り組んでいますが、これまでに「ワープロスピード検定5級」、「漢字検定7級(小学4年程度)」、「数学（算数）検定10級（小学2年程度）」にそれぞれ合格し、新たに「電卓検定」と合わせて、次のレベルへの挑戦を目指しています。

6)「特別講座」について

特別に外部講師に指導していただいた講座は

以下のようなもので、それぞれが味のある経験になったようです。

ボウリング、太極拳、釣り(長崎市高島町釣り公園)、筆ペンアート、みそ作り

7)「余暇活動」について

これまでに以下のような活動をし、余暇の過ごし方について体験しながら社会性を身につける上で大きなプラスになっています。

全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会 in 福岡参加、がんばらんば国体開会式参加、がんばらんば国体ボランティア参加、研究論文発表会（予選）、福岡での研究論文発表会（本選）（4カレッジ合同）、カレッジ福岡での4カレッジ交流会、ハウステンボスでの3カレッジ（ながさき、北九州、早稲田）交流会、ゆたかサンフェスタ（福岡県鞍手郡鞍手町、サンガーデン鞍手）バザー参加、ちっこマラソン大会（福岡県筑後市、県営筑後広域公園）、オリエン合宿（諫早青少年自然の家）、キャンプ（佐賀県北山少年自然の家）、チャレンジデー（大村市のイベント）参加、ボウリング、カラオケ、サザエさん展見学（長崎県歴史文化博物館）、たこ焼きパーティー、登山（佐世保市展海峰、長崎市稲佐山）、おおむら遊園観光（人力車など）、プール（大村市民プール、のんのご温水プール）、初詣（大村神社）、バザー販売（フライドポテト、たこ焼きなど）、花見（大村公園）、川遊び、ドライブ&たらみ図書館、グループホーム“レジデンス大村”宿泊体験会。

“学生”こそが主人公”という理念が端々に感じられます。とりわけ、驚いたことは入学式の進行でした。先輩がいない第1期生初めての「入学式」、だから前例がない。式次第の作成・掲示から当日の司会・進行までも学生たちが自分たちで話し合っ分担当したとのこと。当日は、保護者・来賓が室内にて着席。外に並んだ新入生のひとりが「新入生入場」と号令を発したものですから、思わず大声を出して笑いそうになったものです。学生（といっても全員が新入生）入場後の司会・進行も同様。また、終了後の懇談会（茶話会）もゲームを含めてすべて学生が

取り仕切り、先生方は一切口出しをされませんでした。私は、入学式の有様に“カレッジながさき”の日々の学習や諸活動のあり方が読み取れると感慨深く思ったものです。“「学生」こそが主人公”という基本理念はもとより、個々の学生の実態に応じたきめこまやかな指導がなされているのも“カレッジながさき”ならではのことだと思えます。

私・GGにかかわることに限定して言えば、金銭の管理や食にかかわる指導、はたまた、清潔・衛生観念の醸成ということにかかわっては、先生方に大変お世話になっています。家庭では言葉のやりとりでは、受け入れ側の限界があり大変難儀することが度々ありましたが、先生方の適切な指導・支援があったればこそと、そのたびに深く感謝しありがたく思ってきました。2年生となった現在、2014年11月10日にオープンした共同生活援助事業所（介護サービス包括型グループホーム）“レジデンス大村”に入所しています。本人は大いに乗り気で、前向きに考えているようですが、10月23日の開所式当日の状況を見ると、どうも旅行気分のようにウキウキテンションが上がっていたようです。果たして、就労や自立をめざしての“レジデンス”と意識しているのか疑問にも思えますが、“カレッジながさき”と連携した“レジデンス大村”での学びにも大変期待しています。

“レジデンス大村”では、おやつ（間食）についても十分に管理・指導がなされており、私は深く感謝しています。が、まだまだ自宅に帰ったときには「過食」や「隠れ食い」が見られます。“カレッジながさき”や“レジデンス大村”の先生方の指導や支援により徐々に改善・自立していくことを願っています。

人生は長い。学ぶ期間は1年でも長い方がよい。ハンディーを抱えていればなおさらのことです。これまでの“カレッジながさき”での学びを通して、強く実感しています。孫娘は現在2年目終了間近ですが、今後も継続し4年間の全課程の修了を目指しています。

今後、“カレッジながさき”や“レジデンス大

村”の仲間が増え、お互いの成長を喜び合えることを願っています。多くの「新入生」の「入学」を首を長くして心待ちしています。

カレッジながさき 2年生保護者 長崎のGG様

カレッジでの我が子の成長

息子がカレッジ福岡に通い始めて10ヶ月が経とうとしています。他の学生さんや先生方とのふれあいが楽しいようで、1日も休むことなく毎日楽しく通っています。連絡帳に、何事にも積極的に楽しみながら取り組んでいる様子が書かれてあり、青春を謳歌している息子を見て嬉しく思っています。

行事や余暇活動もとても楽しんでいきます。漢字が好きな息子は趣味で漢字を覚えていたのですが、カレッジ福岡に入ってから漢字検定の4級を受けて合格し、次は3級合格に向けて頑張っています。

これからも企業就労という目標に向かって、いろんなことに挑戦していく息子を見守っていききたいと思っています。

カレッジ福岡 1年生保護者 S. M様

出合いに感謝

カレッジに出会って、先が見通せない暗い不安な生活から親子共々明るい道へ向かえています。本当に感謝、感謝の毎日です。

仕事もみつからず、人とコミュニケーションを取ろうとせず、どうしていいかわからず、自分に自信をなくしかけていた息子が、マラソンを最後まで走ったり、調理実習で役割をこなして楽しめたり、何より毎日規則正しく学校に通って日々明るくなっています。会話も笑顔も増え、これからもこの調子で自分に自信をもって進路を見いだしてくれることを願っています。

何よりカレッジとの出合いを導いてくれた知

人との出会い、一生恩を忘れられない出会いでした。

カレッジ福岡 1年生保護者 カーシー様

よく見る風景

毎夜、我が家では必ずみる風景が2つある。

1つは洋服コーデである。最近は短くなってきてはいるが、今年の春から夏にかけてはかなりの時間を要していたと思う。制服で通う生活が6年続き、私服で毎日出かけることには慣れていないからだ。すべてといえるぐらいの洋服を出しては、色合いや組み合わせのコーデを考えている。私が見ても「あっ、いい感じ!!」と思えるコーデもあれば、「これで行かれますか」と思うものもある。止めたことはないが、好評のコーデはたまに続くが、「これは…」と思うコーデはそれっきりのこともあり、本人のセンスも段々ステップアップしているのだろう。こんな風景をみると女の子なんだなあ、改めて実感する。

2つめは毎日の銭勘定である。それはどんなに疲れていても、またお出かけして遅く帰ってきた日も、これだけは絶対に欠かさない。電卓を使い、1円単位まできっちりつけている。おこずかい帳ノートには自分で工夫をしてつけている。カレッジ生になり、毎月のおこずかいを5000円あげている。大抵は自分の好きなものを帰宅時に買って帰ってくる。レジ先でも1円玉や5円玉なども応用をきかせて支払う姿をみていると、頼もしくも思えてくる。いつだか私が体調を崩した時には、ポカリスエットや私の好きな食べ物を買ってきてくれる気前の良さもある。先日姉とふたりで東京ディズニーランドへ遊びに初めて出かけた。お年玉も入り、自分のお金でチケット代や食事代、またおみやげも買って帰ってきた。私専用の美味しいチョコと自分専用のバームクーヘンを買ってきた。二人でそれを美味しく食べながら、金銭感覚は順

調に育っているなあと思えた。

カレッジに入ってもうすぐ1年。小さい変化だがひとりで生きていく力がついてきたと思う。また友だちと一緒に考えながら進める学習は生きていくのに絶対に必須なことだと思う。あと3年、どんな風に成長していくのか、とても楽しみである。

となりでゲームに夢中になっているHさん!!がんばれ!!応援しているよ。

カレッジ早稲田 1年生保護者

福祉型大学を満喫しています!

しょうがいのある子は、高校を卒業したら、すぐ就労って、何かヘンだなあと思っていました。発達のゆっくりな子だからこそ、いろいろな体験や学びの場が必要…。カレッジは、まさにその希望をかなえてくれるところです。

年子の弟が昨年大学に入学。本人は自分も「大学生」と名乗ることに、妙な満足感を感じているようで…。いえ、それはきっと誇りを感じているのだと感じています。

ダウン症で、おっとりのんびりの長男。言いたいことがなかなかうまく伝えられなかったり、こだわりがあったり、いろいろな課題がありますが、先生や友だちのなかで鍛えていただいています。ここのところ、自分から話しかけることが増えてきたなあと思います。自分の好きなことを通して、調べたり、表現したりすることで、本人の自信につながっていて、本当に感謝です。

これから、どう成長していってくれるか、楽しみです。

カレッジ早稲田 1年生保護者 おでんと熱燗で一杯様

日々の成長

毎日楽しくカレッジへ通っています。いろん

な面で日々成長を感じています。

自分が興味のある話題になりますと、相手の話を聞かず、一方的に同じ話をずっとしていました。今は、会話が“成立”まではいきませんが、少しずつ相手の話を聞き、努力しているように感じます。

毎日、カレッジで会うクラスメイト、先生の名前が覚えられなくて、もう一年が過ぎるところですが、名前と顔がまだ一致していないようです。名前の頭文字を言うと、名前だけは言えるようになりました。これから少しずついいので、クラスメイト、先生の名前をスラスラ言えるようになってほしいです。

カレッジはとても楽しいと話してくれますが、「今日は、何をしたの?」「明日は、何をやるの?」など、本人に聞きましても、何も覚えておらず、連絡帳を見ながら、本人に、「こんなことをしたんだね!」と声をかけると、「そうっかー!」と話してくれます。これからは、できるだけ自分で話をしてくれるようになってほしいです。

課題はまだありますが、少しずつできるようになってほしいです。

日々、わかりやすいご指導、ありがとうございます。これからも大変だとはわかっていますが、息子をどうぞよろしくお願いします。

カレッジ早稲田 1年生保護者

カレッジは楽しそうだね

高校卒業→就労と考えていただけに、就労に失敗したときは高校選びを間違ったと後悔しました。

カレッジに入学してもうすぐ1年、子どもの様子からこの選択は間違っていないと確信しています。定期を取りに戻ったり、大雨や強風による電車の遅延や運休等、順調に通学できない日もありました。そんな時でもあわてず、まず「カレッジに連絡」次に「家に連絡」して状況を伝えたり、図書館やイベントに立ち寄り帰り

が遅くなるときにも、必ず家に連絡して心配をかけないようにすることが一番の成長です。

高校ではひとりだけだったクラスメイトが7人に増え、意見の衝突等もあるでしょうが、解決に導く方法や就労や自立に向けての力を身につけ、前に進んでほしいと願っています。

今までお世話になった先生方が今の子どもを見たらきっとこう言ってくれると思います。

「カレッジは楽しそうだね」

カレッジ北九州 1年生保護者

カレッジに通って

カレッジに通う以前は、普通中学、高校に通い、その後6年間ぐらい、単純な仕事に従事していました。その頃は他の人たちに比べいろいろな面で遅れていて本人はわからないなりにプレッシャーと戦いながらの日々だったと思います。しかし1年間このカレッジに通い、周りの学生さんも大なり小なり同じようなしょうがいを持った子どもさんたちなのでお互い助け合っでゆっくり、又じっくりいろいろなことを経験しながら日々過ごしていくうちに、うつむきがちだった姿勢も少しずつ上向きになってきて、周りの人たちへの気遣い、自分も負けられないという小さな競争心、我慢しなければという忍耐力等も少しずつついてきたような気がします。

また、今まで何気なく見たり聞いたりしていたニュース等も、『1分で発表 今日のニュース』という朝の取り組みのおかげで自分なりに考えて発表していくことでまわりのいろいろなことに目を向けるようになった気がします。

少し遠回りしてこのカレッジに辿り着きましたが、長い人生の中の貴重な4年間、又、僅かな4年間でもあるので、いろいろな経験をさせてもらって、さまざまな枝・葉をつけて次のステップに繋がってほしいと願っています。

カレッジ北九州 1年生保護者

神様がくれた宝物

あれは20年前の暑い日が続く8月8日でした。陣痛が始まり、長女の子と同じように痛みが続く中、産声が上がり安堵したことを思い出します。先生が「少し異常があるようで入院になります」と言われショックを受けたこと、3歳児検診で発達が遅れがあることと、目に異常があり弱視で内斜視があると言われ、私の試練が始まりました。病院めぐりの日々、視力アップの訓練、言語訓練などいろいろ。小学校に上がっては授業についていけないので漢字と計算の勉強と訓練の日々。

将来に不安を覚え、髪をさか立て、目をつり上げて鬼の形相で息子に勉強をさせていました。今思えば本当に可哀想なことをしたと思いますが、その時は「私がなんとかしなくては！」と必死だったのです。思いとは反対に息子は3歩進んで3歩後退でした…。

この子が大人になった時どうなるんだろう？仕事につけるのか？結婚は？私がいなくなったら？と思い悩み、ついにはノイローゼになり心療内科に通うまでになりました。

通院している間に先生から「まだ来てもない未来を思い心配するのをやめて、少し先だけ見て生きてはどうですか」と言われハッと我に返り、子どものためにも先の先まで考えるのはやめよう。目の前を見て行こうと思いました。それからは考えが変わり、特別支援学校高等部に入学し、本人に自信を持たせることを考えていきました。また高等部卒業後、どうしたらいいか悩んでいたらしょうがいがあっても学べるころカレッジに出会い、私が求めていたところがあったと思い、通いはじめてもうすぐ1年が来ます。朝、自分で起きて準備をし、バスで通い、カレッジではパソコンや漢字検定での漢字の勉強、日々起きたこと、ニュースを調べたり、定期的に行われている調理実習では包丁を使うこともできるようになりました。私では教えることができないことを学んでいます。

先日行われた論文発表会では司会を務め、パソコンのパワーポイントを使い発表していました。息子が幼い時、こんな日々が来るなんて考えてもいませんでした。

まだまだできないこともあります、できるようになったことがたくさんあります。

我が子が私を育て成長させてくれて共に歩んだ20年です。息子に感謝し、今年迎える20歳の誕生日を心から祝いたいと思います。

カレッジ北九州 1年生保護者 朝が来ない夜はない様

カレッジでの貴重な時間

「この子たちの成人は30歳です。」毎日現場で多くのお子さんを見ている先生は、講演会でこうおっしゃった。この意味が、最近になってようやく理解できました。

私の子どもは、背伸びをしてきたため、学校社会での逆境に耐えてきました。そして、今、やっと自分の居場所をカレッジで見つけ、自分のペースで社会に向けて歩き始めることができましたと感じます。

カレッジに通ってからは、いままでの環境では身に付けることができなかった、仲間と一緒に考えたり、行動することの経験によって、子どもの精神面での成長や社会に出る意欲が見えるようになってきました。家族だけではなかなか経験できない社会体験が、カレッジでは仲間といっしょに経験したり、チャレンジすることができるからだと思います。そして何よりも、先生方の子どもたちへの愛情あふれる日々の御指導のおかげだと思います。居場所を見つけた子どもは、自立に向け、毎日楽しくカレッジに行くようになりました。

子どもたちにとってはこのカレッジの4年間は、いろいろなことを体験して、次のステップに進むための非常に貴重な時間になると思います。焦らないで、見守って行こうと思います。

カレッジ北九州 1年生保護者

大切なノート

口数が少ない息子からは、カレッジの様子は伝わってきません。保護者とカレッジをつなぐのは支援教員の先生との連絡帳です。先生から一日の活動やお知らせをいただき、家庭からの気付きやエピソードを返して、毎日使いこんだA4のノートはかなり傷んできました。

昨夜、息子は背表紙が破れてページがバラバラになりそうな連絡帳を熱心に修繕していました。自分でボンドを買って来て、細くカットしたガーゼでノートの背を補強してから、その上に布を張って仕上げていました。手の込んだ方法でなおしているのを見て、大切に使用してもらうのことに感心しました。

この5カ月で、息子に目を見張る変化はありませんが、反論が多くなったようです。それは決してマイナスではなく、彼の中で「論点ができた」よろこばしい成長だと理解しています。自己主張は、カレッジの体験で自信がついてきた結果でしょう。先生方の個性を尊重した支援のおかげだと感謝しています。

残り4ページになっても、りっぱに再生された連絡帳はカレッジに対する息子の特別な想いの表れだと思います。無言で託されたこのツールを使ってカレッジライフを応援していきます。

カレッジ北九州 1年生保護者

の言葉でした。

昔は健常児のお友だちも高卒で就職する子ども珍しくなかったけど、今は、ほとんどの子が短大や専門学校、大学と、社会に出るまでにワンクッションおく時代に、ただでさえ、しょうがいのある子どもたちが、「高等部卒業しました。次はすぐ社会人として仕事です。」という環境よりも、何かまだ見えていない、あたらしい経験をしてからでも、と（私の感じたことですが…）ずいぶん前から取り組んでくださっていたことが形になったのが、カレッジ北九州のように思いました。（勝手な解釈ですが…）

学校側も自分たち側も情報のない中でしたが、長谷川先生のお話や想い、オープンキャンパスで接して下さる先生方の温かい目など、感じるところがあり、進学を決めました。

当の本人はというと、会話などに興味がなく、思いを伝えることがキビシイですが、先生方にたくさんサポートしていただいたり、言葉の得意なお友だちの会話を覚えて使ったりすることがみえてきました。また、好きではあるけれど、家でなかなか取り組めなかった漢字検定やパソコン検定などにも全員で挑戦する！！という力もいただけていて、がんばれているようです。

4月からは新入生を迎え、またいろいろな刺激をいただきながら、一步一步進んで行ってくれるであろう姿を見守っていきたいと思います。

カレッジ北九州 1年生保護者

あたらしい世界にとびこんで…

おかげさまで、2014年創設のカレッジ北九州に籍をおかせていただいて、まもなく一年を迎えようとしています。時折、思い返せば、バタバタの毎日の中ですが、そろそろ進路を決めないといけない時期にやってきたお話でした。

『しょうがいのあるお友だちのための、あたらしい選択肢の1つの学校』。情報は（インターネットなど苦手なもので…）プリントとオープンキャンパスと先輩ママ（子どもさんが30代）

学生エッセイ

3年間の授業を振り返って

僕はカレッジに来て3年目に突入しました。その中で3年間の授業で学べたことは自主ゼミとスポーツです。

1つ目の自主ゼミでは、テーマにそって自分の考えを発表する勉強がとてすきでした。最初はテーマに沿ってやると言うことがちょっとむずかしかったのですが、でも論文を書いていくにつれ、すらすらと書けるようになり、自主ゼミの授業を選びました。

2つ目はスポーツです。スポーツでは体力作りを中心に走ったり、球技やヨガなどの勉強が好きでした。特に一番授業で好きなものは3月におこなわれるマラソン大会です。なぜかと言いますと、自分の記録や体力づくりがとてすきでした。

この2つが3年間の中で一番学べた授業でした。

カレッジ福岡 3年生 まささん

私の3年間

私の3年間を発表します。

私の1年生は、まだ学生が5人で、1年生で一番楽しかったのは、初めての全専研です。まずは、みんなで、グループ別で、パソコンで、大阪と三ノ宮を調べました。私は、大阪天守閣とシアターを調べました。また、大阪に行きたいと思いました。

2年生は、ふつうに勉強をして新しく授業をして職業の準備をしました。

3年生では、全専研で茨城に行きました。茨城は、良いところでした。あとは、3年生らしい授業があってとても良いです。

カレッジ福岡 3年生 バジリクス・大好きさん

地元長崎のココロねっこ

1年の頃、元々学生が少なかったけど、去年学生は合計20人増えた。イベントや祭りなどがあり、ゆたかサンフェスタでポップコーンとレジ担当をしました。流通センター祭りで手伝いを頑張りました。

昨年7月のオリエン合宿で、僕は、団長を担当しました。今年は、団長・副団長・リーダーが楽しみです。

12月6日、電卓検定試験日、本番が開始。電卓は打ち直しましたが、計算ミスがあったので、打ち直して書きました。後日合格発表が届き、僕は、電卓検定4級合格になりました。

今年20歳になりましたので、成人を祝う会にイタリアンレストランの昼食を予約でとりました。とてもおいしかったので、満足しました。

僕は今年3年生になるので、4月から新しい授業が始まります。残り2年ですので、頑張りたいと思います。

カレッジ福岡 2年生 Sさん

成長した私

カレッジを経験する前の私……。カレッジに来る前はすごくきんちょうしたし、島から離れるのがすごくさびしいし、親と離れて暮らすことがすごく嫌だった。大丈夫かなってすごく不安だった。

カレッジでのできごと、人との関わり、そのことを通して感じたこと……。カレッジでは自分の成長が少しでも学んでいけたこと。また論文では3位になってうれしかった。また、カレッジながさきで3日間体験して楽しかった。論文で自分のしゅみをパソコンで作成して、いっしょけんめいがんばって、みんなに私のしゅみについて知ってほしくて発表した。

今強く思っていること……。これからは少しでも人とのコミュニケーションが上手にいけたらいいな。勉強していこう、努力しようと思った。

カレッジ福岡 2年生 Blazeさん

この2年間、大きな成長したこと

スポーツで大きく前むきに頑張れるようになったのが、大きく成長と思いました。マラソンのきろくもだんだんのびているところが、自分はいはうれしく思いました。

今から、どんどん成長していきたいと思いました。そして、ぼくは、カレッジに来て2年目になるのもっともっと頑張ろうと思いました。先生方の力もかりながら頑張ろうと思います。いろいろなばめんを、のりこえられるように今から、学習して頑張ります。

かぞくのことも考えて今から、本当に頑張りたいと思います。

カレッジ福岡 2年生 Oさん

たのしかったドラえもん

皆できょうりよくしてりったいのドラえもんをつくって行ってよかったです。ドラえもんかんせいしてよかったです。緊張したんですが、とてもたのしかったです。

カレッジ福岡 2年生 Fさん

成長し続ける僕

カレッジに入る前の僕……。夏休みでは、自主ゼミで芸能人の森光子さんを調べたことがあります。

カレッジでどんなことをしたか……。長崎では調理実習で皿うどんを作りました。皿うどんやちゃんぽんもおいしかったです。

いろいろなことを感じた今の気持ち……。カレッジでは、論文を勉強できるように頑張りたいです。

カレッジ福岡 2年生 りょうちゃん

たのしいカレッジ

ちょうりじっしゅう、ぶた肉とみずなのりはりなべもつくりました。おいしかったです。

マラソンのれんしゅうもたのしいです。

カレッジ福岡 2年生 Yさん

カレッジでうれしかったこと

「ちょうりじっしゅう」で、なべとほうれんそうがうまくつくれるようになってたのしかった。「しょくのうかいはつ」で、けいさんができるようになった。「けんこうスポーツ」でたいりよくがついた。

これからもがんばっていく。

カレッジ福岡 2年生 ぼくさん

よかったこと

カレッジ福岡よくできた。よかった。友だちなかよくよくできてかっこいいでした。研究論文発表会が声を出してよかった。

カレッジ福岡 2年生 大地さん

2年間でふりかえって自分のおもい

1年のときは、ちこくすることもありました。さいきんではまいにちグループホームになれてちこくがなくなりました。じゅんちょうです。

まえはおかねがわからなかったけどいまはわかりました。まいにちあさカレッジでそうじし

ています。グループホームそうじきをつかってなれました。おせんたくものたためるようになりました。せんたくきもなれました。おいそぎコースとかスイッチをおぼえました。

じしゅがくしゅうでにつきをいまもかいてます。いまもがんばってきています。

カレッジ福岡 2年生 ミニーちゃん

この2年間で振り返って

カレッジながさきに入学しようと思ったきっかけは、初めは、高校卒業後を決める際にカレッジ福岡のパンフレットを見て、電話をしたのですが、繋がらなくて、その後にカレッジながさきのパンフレットがあったので入学を決意しました。

カレッジながさきには卒業式を終えた後、3月に入学したのですが、まだ緊張していてなかなか友だちと話すことができませんでした。

入学した当初NHKのテレビの取材が来ていろいろと話を聞かれることがありました。

カレッジながさきが大村にあって大村のこともいろいろ知っていくことが増えていったのでそれも良かったのかなと思いました。

カレッジながさきで過ごしていくなかで、友だちとも段々と話すことが増えて仲良くなれることができました。

行事のなかでも、皆との話し合いや、スケジュールを決めたりすることがスムーズに進められるようになって、行事の方も楽しむことができるようになりました。私も初めは人見知りをする事が多く、初めて会う人や知らない人と話すと、緊張して上手く話すことができませんでした。カレッジで過ごす上で、それも段々と話せるようになりました。人前で発表したりすることも、ドキドキして大きな声で発表するのができませんでした。今では、少しずつできるようになってきました。

カレッジで調理実習でもいろいろとレポート

リーがたくさん増えてできる料理も増えてきています。

カレッジながさきで言語リハビリをしていく中で風車がたくさん吹けるようになって巻き笛なども最後まで吹くことができるようになりました。これからも言語リハビリを続けていきたいです。

あと2年間あるので、就労移行支援になっても、実習や勉強を頑張りたいです。そして、実習でも図書館実習などいろいろなところでの実習を頑張りたいです。将来は、大村の図書館で働けるように頑張りたいです。

カレッジながさきにグループホームができたので、4年生を卒業する前には入れたらいいなあと思います。

これからも友だちと仲良くカレッジ生活を楽しみたいと思います。

カレッジながさき 2年生 ゆきうさぎさん

2年間で振り返って

私は、カレッジに入学するまではあまり話をする事ができませんでした。でも、だいぶ慣れてみんなと話ができるようになってきました。そして先生たちとも話ができるようになりました。

また、特別支援学校の時より笑顔がずっと増えてきました。また、和太鼓やおこづかい帳をつけるのを頑張っています。

そして、レジデンス大村ができて、11月に始まってやっと入れるようになり、今では、すでにGGとバーバと離れて暮らすようになりました。グループホームで初めてのひとり暮らしで、荷物をそろえるのがとても大変でした。ひとりで洗濯をしたり、干したりするのはとても大変だなと思いました。

また、カレッジでは職場体験や見学にも行きました。

そして、成人を迎え大人の仲間に入って、と

でも大変なときもあるけど、とても嬉しいです。また、成人式には、学校の先生方がいっぱいいらっやっていたので、とても嬉しく感謝しています。そして、よい式になったと思います。

また、毎週日曜日に風船バレーとピアノに通っています。風船バレーでは、大会は、月1～2回あるので行ける時は行っています。

これからも笑顔でみんなを引っ張っていきたいと思います。そして就職に向けて、勉強や実習を2年間とおして仕事に就けるように頑張りたいと思います。

カレッジながさき 2年生 ももクローバーZさん

2年間で頑張ったこと

最初は、高校3年の時にカレッジながさきに行きました。就職に向けての準備をしたいと思って入学を決めました。

最初は、友だちと仲良くできなかったです。どう話をすればいいか分からなかったからです。今は、行事や余暇活動とかでみんな楽しんでいき、みんなと仲良くなっています。自分が声をかけて掃除などを頑張っています。ホームルームなどの話し合いでも、自分の意見が言えるようになりました。

友だちが休みのときは友だちの分まで積極的に掃除などをしています。調理実習の時は、おかずをテキパキ作っています。みんなで作るから楽しいです。資格・検定では、数検や漢検をがんばっています。新しく電卓検定も始めています。

たくさん経験してもっと勉強してみたいと思います。自分のやりやすい仕事を見つけて、それに向けて頑張りたいです。

カレッジながさき 2年生 こち亀Zさん

自分自身をふりかえって

自分自身をふりかえって書きます。自分は去年の10月からカレッジに入りました。自分自身をふりかえっておもったことは、カレッジに来てたくさんのことを勉強しました。文芸とか労働とか経済といった、いろいろなことを学びました。

去年の10月にあったゆたかサンフェスタについてふりかえります。サンフェスタではポップコーンをくばる係をしました。大きな声で「いらっやいませ」というのは少しどきどきしたけどどうまくいえたのでよかったです。あとこのサンフェスタの経験で働くことを知ったと思います。

次に、去年の12月のバスハイクについてふりかえります。バスハイクでは、班のみんなと一緒にハウステンボスに行きました。ハウステンボスで、はじめてきて思ったことは、すごすごかですごいと思いました。あと、おみやげも買ったのでまんぞくしています。

次に、1月16日の研究論文発表会の予選会でのできごとについてふりかえります。自分の論文はゲームをテーマにした発表をしました。みんなの前でスーツをきて発表するのは少しきんちょうしましたが、大きな声でゆっくりはっぴょうできてよかったです。

最後に自分のこれからの目標について書きます。自分のこれからの目標はもっと勉強して仕事のできる人間になるようにがんばります。

カレッジ福岡 1年生 はん

中国語

カレッジに入って、あっという間に半年が経ちました。自分はカレッジに入って、コミュニケーション能力を高めようと思いました。先生たちにたくさん、悩みごとを相談しました。

カレッジにはいたら、中国語を勉強しよう

と思いましたが。理由は、何かひとつでもいいから、資格を取りたいと思ったからです。中国語の勉強は難しいです。ですが、習得できれば、中国人と話せます。

半年間で成長したことは、少しだけ自分の内面を表現できるようになったことです。2年後には、通訳と介護の仕事とどちらかを決めます。今は中国語の勉強に励むのみです。

カレッジ福岡 1年生 Iさん

何ごとも努力をすれば 必ず成長できるぞオオ～

私がカレッジ福岡に入って成長したことは、人とのコミュニケーションと、パソコンのアニメーションと、論文発表で人前で発表できたことです。

私は、皆さんとコミュニケーションをしていく中で、話すことは大切なことだと思いましたが。最初、話をするのがあまり好きな方ではありませんでした。じょじょに、コミュニケーションしていくと、わからないことを学んだり教えてもらっているんだと思い、私の方から話をするようになりました。

2つ目は、パソコンを使ってアニメーションが使えるようになったことです。私は論文をしなかったら今ごろアニメーションをしらなかつたと思うし、使えないと思います。論文があったおかげでアニメーションのそうさをできるようになるとは思ってもいませんでした。パソコンのローマ字をうつのもおそかったけど、少しずつできるようになったことが良かったです。

3つ目は、人前で発表できるようになったことです。私は人前で発表すると緊張してまったく話すことができませんでした。でも今では、論文発表会で堂々と発表ができるようになりました。人前で発表するのは緊張してかたまってしまう時もありましたが、今では少しずつ発表できるようになりました。今もまだ緊張するこ

とがありますが、頑張っていこうと思います。カレッジ福岡でまだ成長できることがいっぱいあると思います。私はまだ未熟ですが、これからも頑張っって少しずつ成長していきたいとおもいます。

カレッジ福岡 1年生 Kさん

よろこびをひょうげんすることば

カレッジ福岡では、いろんなべんきょうをしています。文字、かず、ぱそこんなどです。コミュニケーションでは、よろこびのひょうげんをまなびました。

「わーい」「やったー」「イエーイ」です。今日もカレッジで学びます。

カレッジ福岡 1年生 Kさん

時間を見てこうどうしたこと

とけいを見たり、「友だち」もできたりしました。あとは、時間行動も守れています。じゅぎょうの時も、先生たちがくる前にせきにつくことができました。

研究論文発表会2014年度、しめくくってがんばりたいと思います。

カレッジ福岡 1年生 Yさん

イノセンスというヨロイ

入学した当初は、悩み、もがき、苦しみました。今ではだいぶ成長していることは明らかです。

今まで検定の試験は受けられませんでした。受けると決めたらちゃんと結果は残せるのに、明らかに逃げていただけです。ただ単に自分が臆病なだけだったのですが、漠然とした不安から脱却すると、幸運なことに合格しました。し

かしそれは幸運ではなく、不安から脱却した「褒美」だったのかもしれませんが。しかし私はその事実自体否定し、臆病なままでした。

その自分を脱却したくなかったのでイジッパリで、受け身で、イノセンスな自分を保持するための無意識なヨロイを作っていたのです。それを保持するためにヨロイをさらに重装備にしたのです。

しかし、この壁が壊れる時が来たのです。1か月前にはイノセンスの壁が壊れかかっていたのは明らかでした。ついに1か月前の今日、この忌まわしきヨロイを脱いだのです。このヨロイを脱ぐことによって、逆に前向きに考えることができました。一番必要な武器は、無意識な呪縛を捨て去ることだったのです。

それから1か月、このヨロイを脱ぎ去ると、動きが軽くなり、性格も柔らかくなりました。それに伴い、精神面では前よりも強固になっていたようで、ものごとにびくびくせず、しっかりとした対応がとれるようになっていました。余裕というのめだいぶできたようで、以前は自分のやっていることで精いっぱいだったことが、相手の考えを考えるゆとりというのめできたような気がしました。

精神面で大きく成長できたのは、自分が傷つくの恐れず、積極的な発言ができるようになったことです。

そうなれたのは、もがき苦しんでいる時に、中途半端なところで立ち直ろうとせず、自分をどん底に突き墜とし、内面と過去をしっかりと見つめることができたからです。

最後に、最近亡くなったドイツの大統領、ヴァイツゼッカーさんがおっしゃった、「過去に目を向けぬものは一生未来も見えない」という言葉を肝に銘じて生活していきたいです。

カレッジながさき 1年生 Hさん

ひとりで飛行機

家からカレッジ早稲田までひとりで電車に乗って行ってます。電車に乗りながら外を見たりゲームをしたりすることが好きです。ガタンゴトンの音を聞くのが好きです。

研究論文発表会のために、飛行機に乗って福岡まで行きました。グループホームのブルーム和白丘で一晩お泊りしました。帰りは、ひとりで羽田空港まで帰りました。飛行機に乗りながら優しい友だちのことを思いだして、涙がでちゃいました。

漢字検定では、ひとりでプリントと教科書を覚えて練習し、合格しました。

スポーツで習ったストレッチをしました。家でもやって覚えました。今後も、自分で考えて続けていきたいです。

カレッジ早稲田 1年生 俺は平成ライダーさん

カレッジの振り返り

今までカレッジでは、少しづつ慣れてきました。もっと、慣れるようになりたいです。

カレッジ早稲田 1年生 Sさん

1年を振り返って…

今年は思いがけず、皆をまとめることを学んだ1年間でした。

僕は他のみんなより1、2歳年上なので、いろいろと頼りにされることが多く落ち着かない。友だちをなだめたり、困っている友だちと話し合っ解決策を考えたりしました。あとは、自分から進んで仕事を見つけて実行することができました。

労働で物をつくった時や、調理実習の時など、周りの状況を良く見て、次に何をすべきかを考えることができました。

しかし、ひとり暮らしの中で自分の行動を自分で管理して実行することが、まだ十分でないと思います。特に、勉強。漢字検定を受験するとなった時でも、家事以外はせずにゴロゴロしてしまい、今回は合格できませんでした。(3,700円が水の泡！)

来年は、この自己管理能力を高めていくことに力を入れ、いろいろな資格を取っていきたいと思います。

カレッジ早稲田 1年生 焼き付け刃さん

自分が頑張ったこと

最初は、パソコンをトラックパッドを使って操作していましたが、違いを減らすためにマウス操作を覚えました。最初は、マウス操作のやり方が難しく感じましたが、先生に教えて頂きスムーズにできるようになりました。

朝のミーティングで、お弁当のお金の徴収の際に計算ができるようになりました。

調理の際に、包丁の使い方が上手くできるようになりました。「調理って、楽しいな」と思いました。

早めの登校が前はできなかったのですが、できるようになりました。

来年は、自分の気持ちを心にため込まないように、頑張りたいと思います。

カレッジ早稲田 1年生 A. Yさん

できるようになった

高校の時、友だちに言葉ができないことがありました。しかたないから我慢しました。

進路の相談で、やだっことを先生に押し付けられる。私が、どうしたらいいのかとお家で話したところが…、社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会「カレッジ早稲田」を知りました。

私は、すごく憧れて、早速3月に卒業して、

4月から入学して、友だちと仲間とだんだんと言葉が言えるようになって、自分がんばった。自分で言えるようになったのは、カレッジ早稲田の友だちを見て、ありのままにできたので、言葉がうまく言えるようになっていったことがありました。少しずつ、私が慣れて言葉ができるようにいっぱい頑張った。

これからも、苦手なことに挑戦をして、今、いろんなことをがんばりたいと思います。

カレッジ早稲田 1年生 Hちゃんさん

早稲田に来てから

カレッジに入学してからも、家では毎日前からやっているお皿洗い、後片付け、お風呂の掃除、洗濯物をたたむ、部屋の掃除のお手伝いを、今でも続けています。

今年は、論文を作るのが大変でしたが、楽しかったです。でも、発表は疲れました。来年は、『アニメ映画』のことについて、調べたいなと考えています。

話し合いなどでも、一方的にではなく、人の話を聞くこともできるようになりました。

夢は画家なので、おもしろいなあと思えるような作品を作っていきたいです。どちらかと言えば、キャラクターを中心に書いていきたいと思っています。

カレッジ早稲田 1年生 将来の画伯さん

カレッジ早稲田、1年間の振り返り

11月の早稲田大学のパレードに参加しました。そこで、『よさこい』を見て感動しました。早稲田大学学生サークル『東京花火』を紹介してもらいました。2月に初めて見学しました。ひとりで参加して、ドキドキしました。少し不安です。

漢字検定のこと。中学・高等部で、漢字検定の時に、4回不合格だったけれど、今回はカレ

ッジ早稲田で合格をしました。一生懸命頑張りました。次回は、漢字検定6級に合格したい。

言葉を考えるのは、少し苦手でしたが、頑張りました。

カレッジ早稲田 1年生 Sさん

自分になりたい大人

毎日、二時間かけて通っています。

10月のサンフェスタが楽しかったです。

- ・声は、変わった。
- ・しっかりした大人。
- ・自分は強いな大人。
- ・自分も、まじめにやる大人。
- ・厳しい大人。
- ・厳しくする大人。
- ・優しくする大人。

カレッジ早稲田 1年生 Uさん

日々努力

私はカレッジでたくさんのことを学びました。最初のころはバスにちゃんと乗ることができるか不安だったけど、カレ北に通うにつれてバスに乗ることができました。

カレ北の『ニュース発表』という取り組みで、入ったころは緊張して発表ができないことがありましたが、今は発表できるようになりました。

ありがとうございます。

カレッジ北九州 1年生 嵐の櫻井翔君大好きさん

電車

電車が大好きです。論文発表で通勤系車両について調べました。

カレッジ北九州 1年生 電車さん

カレ北の楽しい希望

カレッジ北九州のみんなでUNOをやって楽しいです。カレッジ北九州のみんなは、放課後、音楽を流して聴いています。カレッジ北九州の学生はみんな優しい性格です。

カレッジ北九州 1年生 ROBIさん

自分の成長

カレッジ北九州に入ってから考えが変わりました。それからみんなと余暇活動の話し合いがうまくいっています。苦手なスポーツが好きになりました。フリスビーと卓球がいいと思います。これからも全力で頑張ります。

カレッジ北九州 1年生 Kさん

著 書 名	「カレッジ～支援教員・保護者・学生エッセイ～」
発行年月日	2015年3月20日
著 者	カレッジ支援教員・保護者・学生
編 集	長谷川 正人
発 行	〒807-1305 福岡県鞍手郡鞍手町新延289-2 社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会 電話0949-43-1200